



AKITA MEDICAL DOCTOR SUPPORT CENTER

あきた医師
総合支援センター

秋田県専門研修 プログラムガイドブック2025-2026

Akita prefecture specialized training program Guidebook 2025-2026

専門医を目指す 医学生・研修医の皆さんへ

新しい専門医制度が平成30年度からスタートしました。

本ガイドブックには、秋田大学医学部附属病院や秋田県内の医療機関の診療科の特色を活かして皆さんが安心して専門医が取得できるようにコーディネートされた44の専門医プログラムを掲載しております。大学病院や県内の医療機関を基幹型として、各医療機関と各科の指導医が連携して豊富な臨床経験ができる魅力ある内容になっております。

あきた医師総合支援センターでは、大学病院や県内の医療機関と協力しながら、このプログラムで修練する皆さんが安心して研修できるよう様々なサポートを行っております。なにかご不明な点やご質問がありましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。



あきた医師総合支援センター
SINCE 2013

秋田市広面字蓮沼44番2(秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター1階)

E-mail. info@akitamd-support.com

TEL. 018-884-6430 FAX. 018-884-6457



セミナー情報や開催報告、先輩医師のキャリア紹介、説明会参加の様子など、当センターの活動内容や各種最新情報をホームページ、SNSで紹介しています。

Facebook [あきた医師](#)

Twitter @akitamdsupport

<https://akitamd-support.com>

CONTENTS

秋田大学医学部附属病院

内科専門医プログラム	01
消化器病専門医プログラム	02
脳神経内科専門医プログラム	03
循環器専門医プログラム	04
呼吸器専門医プログラム	05
血液内科専門医プログラム	06
腎臓内科専門医、リウマチ専門医プログラム	07
糖尿病専門医、内分泌・代謝科専門医、老年科専門医プログラム	08
腫瘍内科専門医プログラム	09
感染症専門医プログラム	10
あきた外科専門研修プログラム	11
消化器外科専門医プログラム	12
呼吸器外科専門医、食道外科専門医、乳腺専門医プログラム	13
心臓血管外科専門医プログラム	14
小児外科専門医プログラム	15
脳神経外科専門医プログラム	16
小児科専門医プログラム	17
産婦人科専門医プログラム	18
精神科専門医プログラム	19
整形外科専門医プログラム	20
皮膚科専門医プログラム	21
泌尿器科専門医プログラム	22
眼科専門医プログラム	23
耳鼻咽喉科専門医プログラム	24
放射線科専門医プログラム	25
リハビリテーション科専門研修プログラム	26
麻酔科専門医プログラム	27
救急科専門医プログラム	28
あきた GP NET 専門研修プログラム	29
臨床検査専門医プログラム	30
病理専門医プログラム	31

市立秋田総合病院

内科専門医プログラム	32
------------	----

秋田赤十字病院

内科専門医プログラム	33
救急科専門医プログラム	34

秋田厚生医療センター

内科専門医プログラム	35
整形外科専門医プログラム	36

中通総合病院

内科専門医プログラム	37
------------	----

平鹿総合病院

内科専門医プログラム	38
病理専門医プログラム	39

県内病院の専門研修プログラム

連携病院・関連病院一覧	40
-------------	----

内科専門医プログラム

定員
30名

内科プログラム統括責任者
血液内科専門医
腎臓内科専門医/リウマチ専門医
プログラム責任者
高橋 直人 教授

脳神経内科専門医
プログラム責任者
菅原 正伯 講師

糖尿病、内分泌・代謝、
老年科専門医
プログラム責任者
脇 裕典 教授

感染症専門医
プログラム責任者
嵯峨 知生 病院教授

プログラム管理者
長谷川 仁志 教授

循環器専門医
プログラム責任者
渡邊 博之 教授

腫瘍内科専門医
プログラム責任者
柴田 浩行 教授

研修委員会委員長
消化器病専門医
プログラム責任者
飯島 克則 教授

呼吸器専門医
プログラム責任者
中山 勝敏 教授

**専門研修
担当者** 長谷川 仁志 教授
連絡先 佐藤 昂(総務課) TEL.018-884-6233
E-mail kenshuu@hos.akita-u.ac.jp

プログラムの特徴

経験豊富な各科多数の指導医と充実した研修体制で内科専門医とサブスペシャリティ専門医、さらには医学博士の取得をしっかりサポートします。研修医数に合わせて、専門医取得のための適切な症例経験数を保証します。社会人大学院を含めワークライフバランスをメンターとともに考え、一人一人の専攻医にあった研修プランを設計できます。

医学、医療の本道は内科であり、そこから始まる様々な領域で社会に貢献することができます。生涯の長きにわたり内科専門医は一生涯が勉強です。その一方で、時期を逸せず今の時期に求められることもありま。私たちと一緒に研修を確実に進めましょう。

プログラムの説明

内科専門医受験に必要な内科各分野160症例を、大学各科と関連施設各科と連携して経験します。そのうち初期研修中の各分野の主治医経験例を最大80例まで登録できますので、有効に初期研修を行うことをお勧めします。

1 内科ローテートコース

サブスペシャリティが決まっていない医師向けに、希望に応じて内科各分野を数ヶ月ずつローテートし修練するコースです。サブスペシャリティが決まった段階で、2のサブスペシャリティ重点コースに変更可能です。

2-① サブスペシャリティ重点コース(推奨)

当初から内科系サブスペシャリティ専門科に所属して、内科専門医とサブスペシャリティ専門医取得を目指すプログラムです。大学各科及び関連施設各科と連携して、3年間で内科専門医に必要な症例を経験し、並行してサブスペシャリティの経験も重ねる推奨コースです。

2-② サブスペシャリティ重点 + 医学博士取得コース(推奨)

上記2-①に加えて社会人大学院に入学し、臨床を行いながら内科専門医、サブスペ専門医に加えて医学博士取得を目指すコースです。経験豊富な多くの指導医がしっかりサポートしますので安心して研修できます。世界と直結した臨床と研究を修練して、生涯にわたる長い医師人生として必要な実績をこの時期にしっかり経験することを推奨します。

取得までのキャリアパス

内科専門医取得のための登録症例経験値 160例 (大学および関連病院各科連携)				内科サブスペシャリティ専門医取得のための経験値の例 (大学および関連病院各科連携)			
初期研修 2年間	1年目 (卒後3年目)	2年目 (卒後4年目)	3年目 (卒後5年目)	4年目 (卒後6年目)	5年目 (卒後7年目)	6年目 (卒後8年目)	7年目~ (卒後9年目)
初期研修期間中に80例までの登録可能。 (3年目以降の専門研修につなぐ貴重な症例を経験する。)	1. 内科ローテートコース (サブスペシャリティ決定次第2に移行可能)			内科サブスペシャリティ			サブスペシャリティ 1. 消化器病、肝臓 2. 脳神経内科 3. 循環器 4. 呼吸器 5. 血液 6. 腎臓 7. リウマチ 8. 糖尿病 9. 内分泌・代謝 10. 老年病 11. 感染症 12. アレルギー 13. がん薬物療法
	2-① サブスペシャリティ重点コース (サブスペに所属しながら適宜各科連携して症例経験)			内科サブスペシャリティ			
	2-② サブスペシャリティ重点+ 医学博士取得コース			内科サブスペシャリティ			
医学系社会人大学院 (専門研修を行いながら4年間の研究期間を相談の上設定)							

各サブスペシャリティ専門研修の詳細・連絡先は、次のページからの内科系の各科サブスペシャリティ専門研修のページをご参照ください。

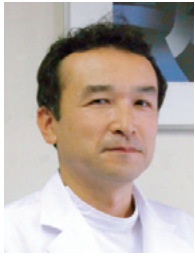
主治医経験症例登録終了
(初期と合わせて160症例)

内科専門医
試験受験

サブスペ専門医
試験受験

大学院4年終了
医学博士取得

消化器病専門医プログラム



プログラム責任者
消化器内科学・神経内科学講座
飯島 克則 教授

専門研修担当者連絡先
松橋 保 准教授
TEL.018-884-6104 FAX.018-836-2611
E-mail tamotsu@doc.med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika1/>



プログラムの特徴

消化器内科の診療は消化管グループ、肝胆膵グループに分かれて行われています。診断や治療方針は必ずグループカンファレンスを経て決められ、総合的な判断が必要な症例は外科、放射線科、腫瘍内科との合同カンファレンスで治療方針が決められます。術後の病理診断などの確認もカンファレンスで行います。一つ一つの症例の診断・治療について、必ず複数の医師、複数の診療科が関わっていることが大変重要です。

大学病院の特徴として難治例、治療困難例の紹介が多いので、貴重な症例の経験を積むことができます。また、食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術や超音波内視鏡下FNAなど、ほかの施設ではあまり行われていない検査・治療が色々あります。それらの検査・治療は当科でなければ研修のしようがありません。

最初の1-2年間は所属グループを決める必要はありません。早めにグループを決めたとしても、後で述べる基本的手技はすべて習得できるように指導します。

プログラムの説明

消化器内科は対象とする臓器が食道、胃、大腸を含む消化管と肝臓、膵臓、胆道系、腹膜と多岐にわたります。そのため習得すべき基本的手技も上部消化管内視鏡検査、胃透視、下部消化管内視鏡検査、注腸造影検査、腹部超音波検査など沢山あります。最初の2年間で基本的手技をマスターし、続いて研修の進み方に応じて、早期癌の内視鏡治療、内視鏡的食道胃静脈瘤治療、肝癌ラジオ波焼灼術、ERCP等の高度な手技の習得を目指します。

豊富な症例と大勢の経験豊かな医師の指導により、消化器病専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医の取得を目指します。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

消化器病学会 指導医 3名、専門医 13名
肝臓学会 指導医 2名、専門医 5名
消化器内視鏡学会 指導医 3名、専門医 10名

■各種学会施設認定

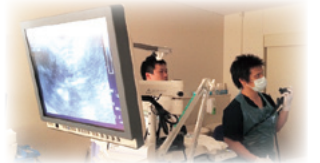
消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会

■出身大学・出身高校

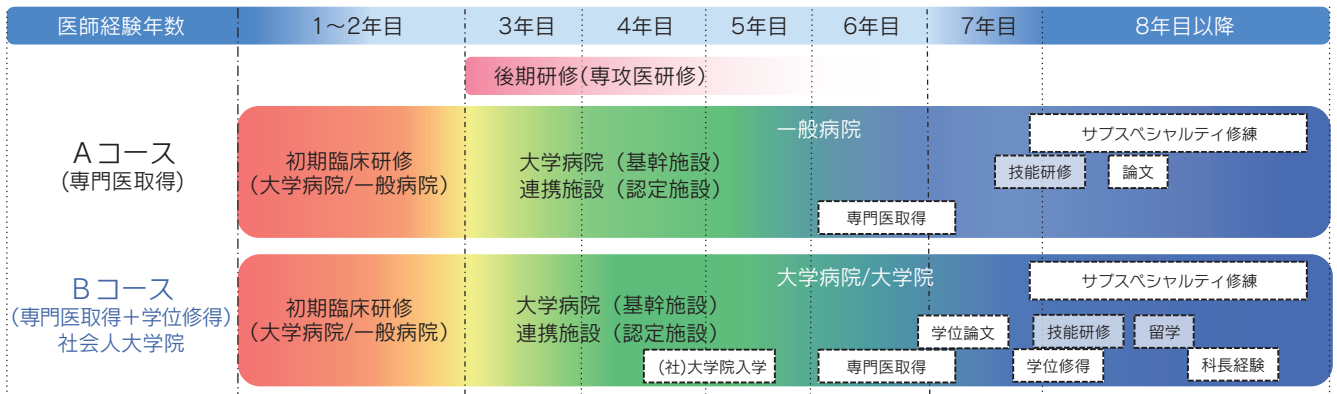
出身大学：東北大学、秋田大学、自治医科大学、岩手医科大学、獨協医科大学
出身高校：秋田高校、横手高校、大館鳳鳴高校、能代高校、函館ラサール高校、盛岡第一高校、仙台育英学園、水戸第一高校、宇都宮高校、桐朋高校

■主な連携施設

秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、本荘第一病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、市立横手病院、能代厚生医療センター



取得までのキャリアパス



※現段階での受験資格は、消化器病学会専門医は内科臨床研修終了後、満3年以上の消化器病学会認定研修。肝臓専門医は、初期一般研修終了後、肝臓専門医研修カリキュラムに従って5年以上の肝臓病学臨床研修。

◆主要なサブスペシャリティ：
消化器病学会専門医、肝臓専門医、日本消化器内視鏡専門医

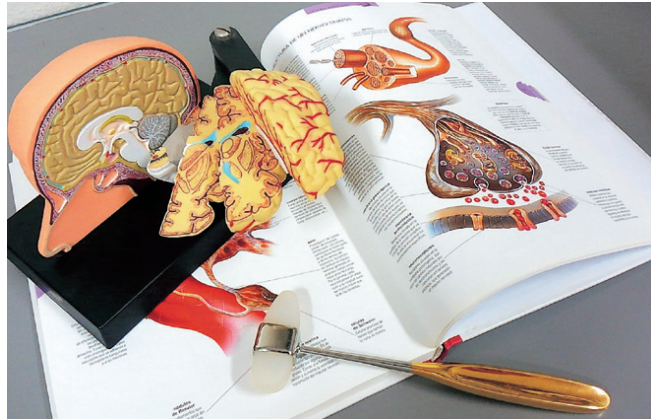
脳神経内科専門医プログラム



プログラム責任者

消化器内科学・脳神経内科学講座
菅原 正伯 講師

菅原 正伯 講師
TEL.018-884-6104 FAX.018-836-2611
E-mail masashir@med.akita-u.ac.jp
(タイトルに「専攻医希望/問い合わせ」と明記してください)
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika1/>



プログラムの特徴

少人数の診療、研究グループですが、秋田県内の神経難病、神経免疫疾患の診療を精力的に行っています。また、学生教育にも力を注いでいます。専門医育成に関しても、十分な成果を上げてきました。秋田には、血管障害、認知症、てんかんなどのcommon diseaseの診療に従事する脳神経内科医が、まだまだ足りません。地域医療に貢献できる、研究マインドを持ち合わせた、神経・筋にかかわる疾患の総合診療ができる脳神経内科専門医を育成することを、目的としています。

プログラムの説明

脳神経内科はcommon disease(頭痛、てんかん、認知症、脳血管障害)から、神経難病、末梢神経疾患、筋疾患に至るまで、多くの疾患を扱い、全身を診る診療科です。ゆえに、総合診療のトレーニングにもなります。高齢化に伴い認知症診療への関与は避けられない課題です。多くの神経変性疾患では、神経細胞内に異常凝集蛋白が蓄積し、機能障害そして、神経細胞死を引き起こすことがわかってきました。早期診断、早期治療介入のためのバイオマーカーの探索、病態修飾治療のための病因、病態解明も着実に進歩しています。ガイドラインに従って診断、治療するだけでなく、新たなevidence makingに従事できる機会に恵まれた診療科であるともいえます。特定の領域に偏ることなく、幅広い疾患を経験して、知識、診療技術を身に着けることができます。希望があれば、専門科・専門施設での、小児神経、神経放射線、神経病理などのオプション研修も可能です。脳卒中専門医を目指す人、外科と内科で迷っている人のための総合神経系研修コースもあります。

内科専門医取得後に脳神経内科専門医が速やかに取得できるように、早期から症例の登録をサポートします。また、医学博士取得をお勧めしています。社会人大学院に進学して取得(甲)するほか、論文博士(乙)を取得することも可能です。

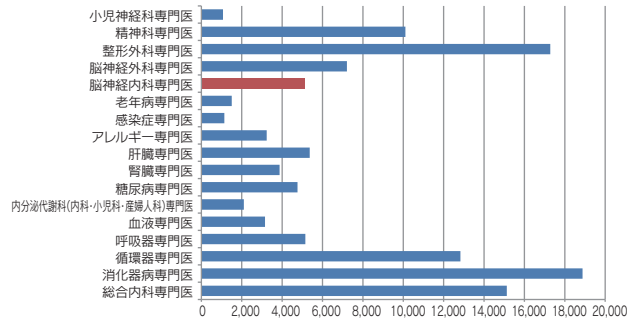
取得までのキャリアパス

初期臨床研修	内科研修	内科病歴提出	内科筆記試験 内科専門医	脳神経内科 専門医試験			
脳神経内科専門医取得コース							
初期臨床研修	内科研修*		脳神経内科重点プログラム	脳神経内科専門医として診療に従事			
脳神経内科専門医・学位取得コース							
初期臨床研修	内科研修* 社会人大学院		脳神経内科重点プログラム 研究(大学院)	脳神経内科専門医として診療に従事			
総合神経系研修コース							
初期臨床研修	神経系 総合研修#	内科研修* + 脳神経内科重点プログラム または、脳神経外科プログラム		脳神経内科または、脳神経外科 専門医として診療に従事			
1	2	3	4	5	6	7	8

内科研修*: 研修カリキュラム、研修手帳(疾患群項目表)、技術・技能評価手帳に従って必要な症例をみれなく経験。脳神経内科に所属しながら、他内科での研修も可能。脳神経内科専門医研修は大学の他、市立秋田総合病院等と連携して実施。サテライトの外来診療で診療経験を積む。
脳卒中包括医療センター、神経放射線、小児神経、神経病理での研修を組み込み可能。
神経系総合研修#: 脳神経内科または、脳神経外科に所属しながら、後期研修1年目に脳卒中包括医療センター、神経放射線、小児神経、神経リハビリ、神経病理などの脳神経系関連部門を数か月ずつ自由に組み合わせて研修。
◆主要なサブスペシャリティ: 脳卒中専門医、認知症専門医、頭痛専門医...

(図)に示すように脳神経内科専門医はまだ不足しています。キャリアプランの実現に向けて医師として多岐にわたる日々を過ごせる、脳神経内科の仲間が増えることを心から望んでいます。

当科におけるこれまでの留学先: DUKE大学、東京大学、国立精神・神経医療研究センター。希望に沿って、国内、国外の留学先を紹介できます。



専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

日本神経学会指導医 2名、専門医 4名

■指導担当医師数と出身大学・出身高校

○指導担当医数...2名

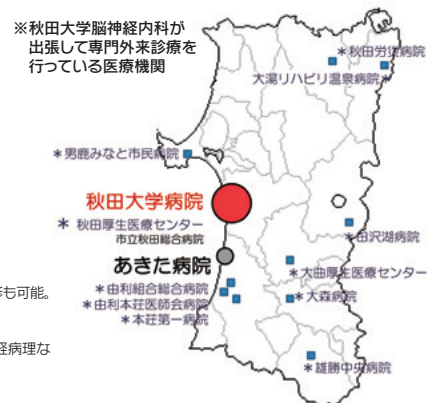
○出身大学・出身高校...秋田大学、岩手医科大学・秋田高校、新発田高校、鶴岡南高校

■各種学会施設認定

日本神経学会教育施設

■主な連携病院

秋田労災病院、大湯リハビリ温泉病院、男鹿みなと市民病院、秋田厚生医療センター、由利組合総合病院、本荘第一病院、由利本荘医師会病院、大曲厚生医療センター、横手病院、大森病院、角館総合病院、田沢湖病院、雄勝中央病院、国立病院機構あきた病院、市立秋田総合病院 (図)



循環器専門医プログラム



プログラム責任者
循環器内科学講座
渡邊 博之 教授

専門研修担当者連絡先
 鈴木 智人 助教
 TEL.018-884-6110 FAX.018-836-2612
 E-mail tom.suzuki@med.akita-u.ac.jp
 HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika2/>



プログラムの特徴と説明

循環器内科では心臓病や全身の血管病の診断・治療、さらにそれら心血管病の予防医療を行っています。そのため高血圧内科・動脈硬化内科の分野から救急医療・循環器緩和医療まで幅広い領域の診療を担当しています。診療チームはおもにnon-invasive cardiologyチームとinvasive cardiologyチームで構成され、その詳細を以下に示します。

【non-invasive cardiologyチーム】

循環器疾患予防診療（高血圧・脂質異常診療など）、心臓リハビリ、緩和医療や心臓超音波検査を担当し、それらの分野のスペシャリストを養成、循環器学会やその関連学会認定専門医資格取得を目指します。

【invasive cardiologyチーム】

PCI、経カテーテル大動脈弁植え込み術、肺塞栓などの心臓カテーテル検査・治療や不整脈検査・アブレーションさらにペースメーカー/ICD植え込み治療を担当します。急性心筋梗塞や致死性不整脈治療などのスペシャリストを養成し、循環器学会やその関連学会の認定専門医資格取得を目指します。

アピールポイント

上記チームや専門分野は自由に選択できます。さらに本人の希望に従い、チーム間を相互に行き来し総合的な循環器診療技術を身につけることも可能です。

また、臨床経験から生まれた疑問をもフィードバックすることで論理的思考を兼ね備えた臨床医を育成します。さらに、女性医師の出産・育児や男性医師であってもライフスタイルに合わせた業務体系の選択が可能です。このように多彩な選択肢があることが循環器内科診療、そして本プログラムの特徴です。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■専門医

内科認定医・専門医:25名、循環器専門医:20名、超音波専門医:4名、心血管インターベンション認定医・専門医:12名、不整脈心電学会専門医:3名、高血圧専門医指導医:3名

■施設認定

日本循環器学会認定施設、日本超音波学会認定施設、日本心血管インターベンション学会認定施設、日本高血圧学会認定施設、日本不整脈心電学会認定施設、日本動脈硬化学会認定施設

■出身大学

秋田大学、自治医科大学、山形大学、昭和大学、金沢医科大学など

■関連施設

秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、市立秋田総合病院、北秋田市民病院、由利組合総合病院、能代厚生医療センター、能代山本医師会病院、市立角館総合病院、大曲厚生医療センター、本荘第一病院、湖東厚生病院、藤原記念病院、雄勝中央病院、市立横手病院、市立大森病院、大館市立総合病院、市立扇田病院など

取得までのキャリアパス

医師経験年数	1~2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
勤務	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	後期研修(内科専攻医研修)		大学病院(基幹施設) 連携施設(認定施設)	一般病院/大学病院 サブスペシャリティ修練		
専門医取得 (内科学会/循環器学会 他)					内科専門医 取得	循環器専門医 取得 ^{※1}	◆各種 専門医
大学院/学位			(社会人) 大学院入学 ^{※2}		論文作成/発表 学位修得 ^{※3}		国内外 留学

※1 循環器専門医受験資格(2022年度以降) 2020-2023年は移行措置
 ①新制度内科専門医を取得している
 ②循環器学会会員歴3年以上
 ③循環器J-OSLERシステムにおける循環器領域の新制度研修を修了

※2 大学院入学年は自由に選択可能

※3 学位取得には(甲)課程博士と(乙)論文博士があり、選択可能

◆主要なサブスペシャリティ
 循環器専門医、超音波専門医、
 心血管インターベンション認定医/専門医、
 不整脈専門医、高血圧専門医、動脈硬化専門医、
 心臓リハビリテーション指導士/認定医 など

呼吸器専門医プログラム



プログラム責任者
呼吸器内科学講座
中山 勝敏 教授

**専門研修
担当者
連絡先**
佐藤 一洋 特任准教授
TEL.018-801-7510 FAX.018-801-7509
E-mail kokyuuiki@med.akita-u.ac.jp
HP <https://kokyuki.jp>



プログラムの特徴

呼吸器疾患は腫瘍、感染症、アレルギー、機能的肺疾患、自己免疫疾患など多様であり、診断にも治療にも日々強い興味をもって診療できます。患者数も増加しており、社会的ニーズの非常に高い分野です。病態を知るうえで多くの知識や深い思考も要しますが、時間的な拘束や夜間の対応が少ないため子育てをする女性医師にも学びやすい分野です。

初期研修で全般的な技能を身につけた後、呼吸器疾患を中心に一般内科から救急医療にいたるまでの診療をしっかりと習得し、専門医取得を目指します。呼吸器専門医は総合内科専門医取得後、認定施設での3年間以上の研修を行えば専門医試験を受験できます。

専門医の短期取得を目指すコースと研究を志し大学院へ進むコースとがありますが、社会人大学院生のシステムを使い、両立させることが可能です。

プログラムの説明

①専門医取得コース

医員として主に臨床研修を中心に行うコースです。並行してアレルギーや感染症関係の専門医も取得できるため、大学のみならず、関連病院での研修も行い短期間で専門医取得を目指します。大学院生とならずとも、日々の臨床に即した研究や学会発表を行えますが、希望があれば途中から大学院への入学も可能です。



②専門医取得+社会人大学院コース

大学院生として研修を行いつつ、内科や呼吸器専門医などの取得と共に、医学博士取得を目指すコースです。臨床研修に加え、主に2~4年目で研究を行い、成果を国内外へ発信します。社会人大学院生であるため、収入も医員と同等であり、生活は保障されます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

内科認定医:6名、総合内科専門医:5名、呼吸器専門医:6名、呼吸器指導医:5名、アレルギー専門医:6名、アレルギー指導医:3名、感染症専門医:1名、結核抗酸菌症認定医:6名、結核抗酸菌症指導医:1名、老年医学専門医:1名、老年医学指導医:1名、プライマリケア学会認定医:1名、気管支鏡専門医:2名

■各種学会施設認定

日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

■指導担当医師数と出身大学・出身高校

- 指導担当医数…10名
- 主な出身大学医学部…秋田大学、東北大学
- 主な出身高校…秋田高校、能代高校、横手高校、大館鳳鳴高校、角館高校、札幌南高校(北海道)、盛岡第一高校(岩手)、三条高校(新潟)、郁文館高校(東京)、掛川西高校(静岡)、玉野光南高校(岡山)、気仙沼高校(宮城)、日比谷高校(東京)、東海高校(愛知)

■主な関連病院

秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、市立秋田総合病院、能代厚生医療センター、外旭川病院、藤原記念病院

取得までのキャリアパス

	1-2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目以降
専門医取得コース 初期臨床研修 (大学病院/一般病院)		大学病院/おもに連携施設	内科専門医研修	呼吸器専門医研修	内科専門医取得	呼吸器専門医取得	アレルギー専門医 感染専門医 結核病認定医 気管支鏡専門医 老年医学専門医 癌治療認定医 抗菌化学療法認定医 などを随時取得		学位取得
専門医取得コース (地域枠) 初期臨床研修 (大学病院/一般病院)		大学病院/連携施設もしくは特別連携施設(関連施設)	内科専門医研修	呼吸器専門医研修	内科専門医取得	呼吸器専門医取得	アレルギー専門医 感染専門医 結核病認定医 気管支鏡専門医 老年医学専門医 癌治療認定医 抗菌化学療法認定医 などを随時取得		学位取得
専門医取得+ 社会人大学院コース 初期臨床研修 (大学病院/一般病院)		大学病院/おもに連携施設	社会人大学院	呼吸器専門医研修	内科専門医取得	呼吸器専門医取得	アレルギー専門医 感染専門医 結核病認定医 気管支鏡専門医 老年医学専門医 癌治療認定医 抗菌化学療法認定医 などを随時取得		学位取得

◆主要なサブスペシャリティ:呼吸器専門医、アレルギー専門医、感染症専門医など

血液内科専門医プログラム



プログラム責任者
血液・腎臓・膠原病内科学講座
高橋 直人 教授

専門研修担当者連絡先
小林 敬宏 講師
TEL.018-884-6116 FAX.018-836-2613
E-mail takahiro@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika3/>



プログラムの特徴

秋田大学第三内科は、血液疾患ならびに腎臓・膠原病の診療、研究を行っています。内科領域の専門化が進む中で、総合的な視点から診療を行なうことの重要性が見直される中、それぞれの専門性を生かしつつ、同時に総合的な内科医を目指していきたくと思っています。これは、GeneralistとSpecialistの両立です。また、医学・研究機関としてのミッションとしての臨床医学教育はもちろん、学生・研修医や内科専攻医に対するリサーチマインドの涵養にも努めます。社会に信頼されるプロフェSSIONナルとしての専門医の育成を目指しています。

プログラムの説明

「血液領域のあらゆる疾患に幅広い対応力を備えた総合内科医」、「造血幹細胞移植や分子標的薬を駆使する専門医」、「難治性造血器疾患に対するトランスレーショナルリサーチを志す専門医」。当プログラムではこれら全ての期待に応えるべく、同年代の若手血液内科医と共に学べる環境を準備しました。血液内科領域のプライマリ診療から造血幹細胞移植、あるいは新薬の開発治験（第一相から第三相）まで幅広い臨床経験が可能です。また、臨床研究のみならず基礎研究でも多くの教育の実績があり、学位取得希望者は専門医研修と並行しながら研究歴を積むことも可能です。カナダ、アメリカ、フランス、シンガポールなど海外の研究室との共同研究にも積極的に取り組んでいます。血液内科専門医に加え、国際学会における研究発表や権威ある専門誌への論文投稿を経て将来の国内留学・海外留学を視野に仲間と一緒にキャリアアップしませんか。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■指導医、専門医、認定医など

日本血液学会指導医数：10名、日本血液学会専門医数：13名、日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医：4名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医：2名

■各種学会施設認定

日本血液学会血液研修施設、日本造血細胞移植学会認定施設、JCOGリンパ腫グループ参加施設、JALSG研究グループ参加施設

■主な連携病院

秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、由利組合総合病院、平鹿総合病院、能代厚生医療センター、大曲厚生医療センター

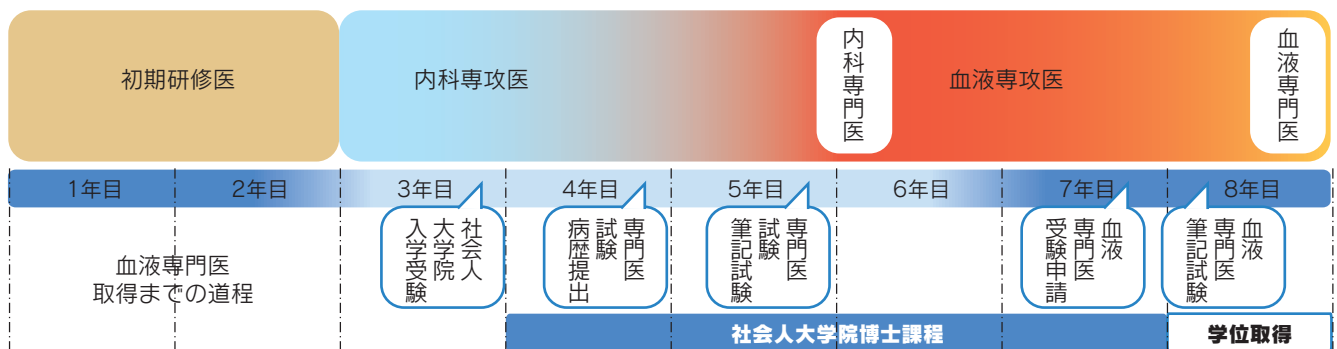


■取得までのキャリアパス

初期研修プログラム

内科専門医研修プログラム

血液専門医研修プログラム



◆主要なサブスペシャリティ：日本血液学会専門医、造血細胞移植認定医、総合内科専門医

腎臓内科専門医、リウマチ専門医プログラム



プログラム責任者

血液・腎臓・膠原病内科学講座
高橋 直人 教授



専門研修
担当者
連絡先

齋藤 雅也 助教
TEL.018-884-6116 FAX.018-836-2613
E-mail masaya@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika3/>

プログラムの特徴

腎臓内科、リウマチ科の専門研修により、腎臓専門医とリウマチ専門医の両方をめざすプログラムです。

腎臓内科はこの10年で大きく変わりました。旧来の「腎生検、腎病理、個別治療、ステロイド」というイメージは一部に過ぎません。抗癌剤治療や感染症診療における急性腎障害(AKI)と予後に多大な影響を与えます。慢性腎臓病(CKD)においては、血圧はもちろん、ミネラル骨代謝や貧血管理による予後改善、あるいは糖尿病性腎臓病(DKD)や薬剤性腎障害(DKI)という新たな概念が登場しています。これらによって、「腎生検しない腎臓専門医」、「コンサルテーション主体の腎臓専門医」の立ち位置が確立しています。

リウマチ科は新たな薬がますます登場し、もともとホットな分野でしたが拍車がかかっています。もともとの治療進歩に加え、生物学的製剤、分子標的薬により近年発症した関節リウマチ患者はほぼ変形しなくなりました。たくさんの患者さんからの感謝を直に受けられ、医師の満足度も高い分野です。近年は、戦略的に休薬したり投与間隔を空けたりと、費用対効果の研究が進んでいます。午前は外来で楽しく患者さんと話し、午後は自己研鑽に励むのが現在のリウマチ専門医の姿です。

プログラムの説明

「おはよう」から「おやすみ」まで患者さんとともに。

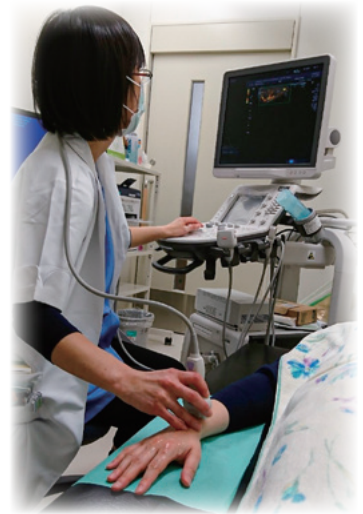
腎臓内科:患者さんに腎生検を勧め、腎生検を行い、読み、説明し、治療します。急性腎障害、慢性腎臓病、薬剤性腎障害など腎組織から離れた分野で「腎臓専門医」としても活躍できます。

リウマチ科:関節に触れて感じ、検査し、考え、説明し、治療します。関節リウマチ以外の膠原病に興味のある方には、腎障害、肺障害などの臓器合併症を学んでいただけます。また時々来る「よく分からない患者さん」には、全員で意見を出し合って解決していきます。どちらも発症から患者さんの一生に関わります。

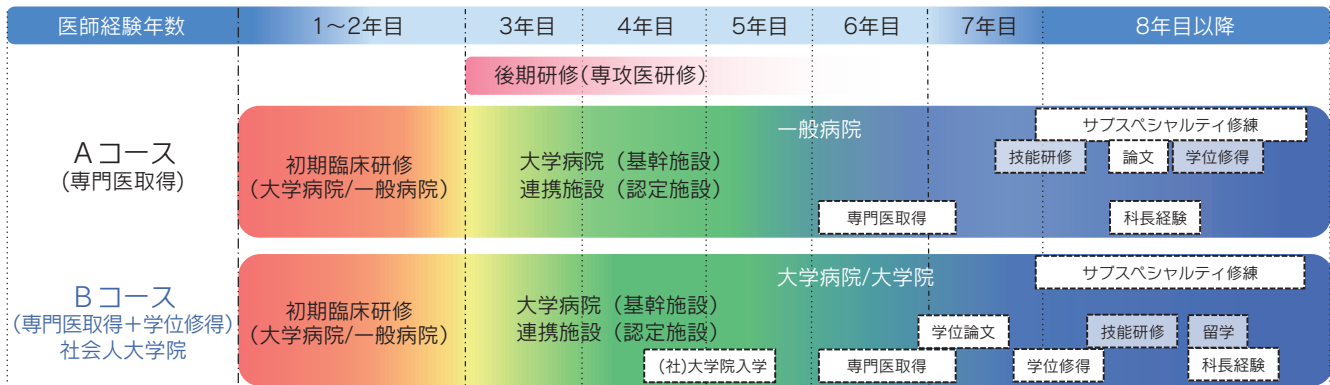
ワークライフバランス:いずれも慢性疾患が主体ですので、外来診療、入院診療とも時間外までかかることはほとんどありません。育児中のプログラム参加も歓迎いたします。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

当科スタッフは、卒後10年目までに腎臓専門医とリウマチ専門医を取得できています。したがって現状では、スタッフほぼ全員が専門医です。指導医も複数勤務しています。出身地は秋田県が多いですが、山形、岩手などの東北地方や関東出身のスタッフもいます。もちろん日本腎臓学会、日本リウマチ学会の教育施設です。



取得までのキャリアパス



※腎臓専門医とリウマチ専門医は、学会会員歴が5年以上必要です。
1年目に入会すれば最短で6年目に取得可能ですが、3年目に入会した場合には8年目以降となります。

◆主要なサブスペシャルティ:腎臓専門医、リウマチ専門医

糖尿病専門医、内分泌・代謝科専門医、老年科専門医プログラム



プログラム責任者
 代謝・内分泌内科学講座
脇 裕典 教授

**専門研修
 担当者
 連絡先** 加藤 俊祐 特任助教
 TEL.018-884-6769 FAX.018-884-6449
 E-mail katoshun@gipc.akita-u.ac.jp
 HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~rounen/>



プログラムの特徴

当科では、糖尿病専門医、内分泌・代謝科専門医、老年科専門医を取得するための3つのプログラムがあります。全人的医療を臨床の場において展開できる優れた専門医を養成することをプログラムの基本理念としています。

2022年度より、新たに日本専門医機構による内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医の認定が開始されました。本資格は、今までの内分泌・代謝科専門医を包括する資格に位置付けられており、糖尿病専門医は今後上位のサブスペシャリティ(糖尿病内科領域専門医)に包括される予定となっています。2018年以降に内科専門医研修を開始された方は、当科での糖尿病専門医、内分泌・代謝科専門医の研修プログラムにおいて、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医、糖尿病(内科領域)専門医を取得することが可能です。

糖尿病専門医プログラムにおいては、発症早期で食事・運動療法など生活習慣への介入が主である糖尿病症例、合併症が進行し他科との密接な連携が必要な糖尿病症例、1型糖尿病、妊娠糖尿病など、多種多様な症例を秋田大学糖尿病・内分泌内科ならびにその教育関連施設で研修することが可能です。さらに、関連病院との協力した多施設共同の臨床研究や、肥満や糖尿病とその合併症の発症進展機構の解明を目指した基礎研究を行っています。臨床研究や基礎研究の推進で新しい知見にもとづいた医療を構築することを目指しています。

内分泌・代謝科専門医プログラムにおいては、下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患、膵内分泌腫瘍など、多種多様な診断に集学的な検査が必要な内分泌症例を、秋田大学糖尿病・内分泌内科にて経験し、研修することが可能です。さらに我々は、内分泌ホルモンの新しい可能性を探る基礎研究を行っています。こういった研究の推進で新しい知見にもとづいた医療を構築することを目指しています。



老年科専門医プログラムにおいては、高い専門性をもった老年病学に基づく医療を提供し、高齢者の医療・介護・福祉にかかわる職種のリリーダーとして活動できる老年病専門医を養成することをプログラムの基本理念としています。

超高齢社会の日本において、加齢に伴う、身体的、精神的な症状、疾患—いわゆる老年症候群に対して、総合的に、秋田大学糖尿病・内分泌内科・老年内科で研修することが可能です。CGA(高齢者総合機能評価)をもとにADL・認知機能・社会的背景などを評価し、問題点を抽出することで、適切な介入を行っています。また、近年フレイルという概念が徐々に広まりつつありますが、当科では、フレイルの核となるサルコペニアの評価を積極的に取り入れ、より適切に介入することを心がけています。

本人や、家族の価値観、人生観に配慮して診療を行うことができ、またチーム医療のリリーダーとして活躍できる医療者を育成することを目指しています。

プログラムの説明

当科では、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医、糖尿病(内科領域)専門医、老年科専門医の3つの専門医を取得することが可能です。専門医の資格を取得するためには、学会の認定施設において、一定期間の研修を行うことが必須です。内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医の認定においては、秋田大学医学部附属病院または認定教育施設・教育関連施設における3年間の研修が必要となります。秋田市内に認定教育施設は3か所、秋田市外に認定教育施設、教育関連施設がそれぞれ1か所あり、今後さらなる拡充を目指しています。現状では、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医を取得されて、さらに1年間のサブスペシャリティ研修を積んだ後に、糖尿病(内科領域)専攻医を取得できる予定です。当プログラムでは、それぞれ最短での専門医取得が可能です。また老年科専門医に関しては、今までどおり秋田大学医学部附属病院での3年間の研修が必要となります。よって専門医の取得の順序としては、まずは内分泌・代謝・糖尿病内科領域専門医を取得し、その後に糖尿病(内科領域)専門医や老年科専門医の取得を目指すことになります。

取得までのキャリアパス

医学部卒業後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (専門医及び学位取得) 大学院5年目入学	初期研修	— 内科専門研修カリキュラム:大学/関連病院 →	内科専門医取得	サブスペシャリティ専門研修	→	大学院(社会人大学院含む)		学位取得
						内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医/糖尿病(内科領域)専門医/老年科専門医/甲状腺専門医取得		
Bコース (専門医取得優先)	初期研修	— 内科専門研修カリキュラム:大学/関連病院 →	内科専門医取得	サブスペシャリティ専門研修	→	内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医/糖尿病(内科領域)専門医/老年科専門医/甲状腺専門医取得		

腫瘍内科専門医プログラム



プログラム責任者

臨床腫瘍学講座

柴田 浩行 教授



専門研修
担当者
連絡先

柴田 浩行 教授
TEL.018-884-6261 FAX.018-884-6455
E-mail hiroyuki@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

プログラムの特徴

- 専門医と学位をオン・ザ・ジョブで取得する。
- がん多死時代に「五大がん」から「レアな臓器がん」までを診れる腫瘍医を育てる。
- 拠点病院から在宅まで、幅広いフィールドで望まれ、活躍できる人材を輩出する。
- がん薬物療法は内科学会他のサブスペシャリティに正式に承認された。
- がんゲノム医療を実践できる。

プログラムの説明

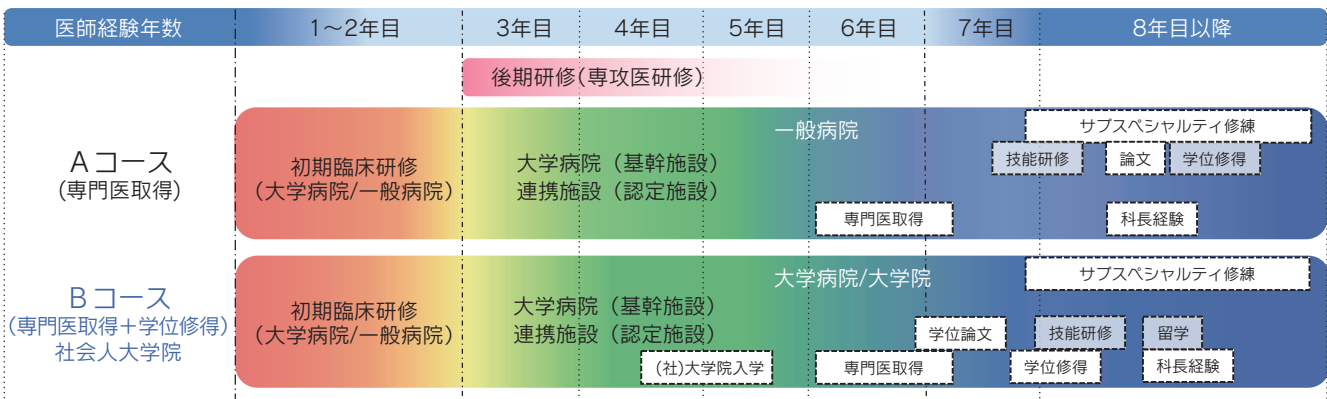
- 専門医研修(サブスペシャリティ)は秋田大学医学部附属病院と秋田県内のがん拠点病院とタスキがけで専門医取得を目指すことができます。
- 高齢化=「がん多死」社会です。メジャーながんの進行期からターミナルケア(在宅)までを一貫して診れる「がんの総合医」を養成します。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 1) がん薬物療法専門医、指導医(*)、施設認定(秋田大学医学部附属病院) 柴田浩行(愛知)*、福田耕二(秋田)*、吉田泰一(北海道)、島津和弘(千葉) 田口大樹(秋田)
- 2) 内科学会指導医 柴田浩行、福田耕二
- 3) 総合内科専門医 福田耕二
- 4) がん治療認定医 柴田浩行、福田耕二、島津和弘、吉田泰一、田口大樹
- 5) 消化器病専門医 吉田泰一
- 6) 消化器内視鏡専門医 吉田泰一



取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:がん薬物療法専門医、がん治療認定医

感染症専門医プログラム

定員
2名



プログラム責任者
感染制御部
嵯峨 知生 病院教授

専門研修
 担当者
 連絡先

嵯峨 知生 病院教授
 TEL.018-884-6248 FAX.018-884-6566
 E-mail sagatomoo@med.akita-u.ac.jp
 HP https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_infection_control_and_prevention.html



高度感染症ユニット棟でのエボラウイルス感染症疑い患者受入れの合同訓練

プログラムの特徴

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう今ほど感染症の重要性が痛感されている時代はありません。しかし振り返ると医学の歴史は感染症克服の歴史そのものであり、人類は長年にわたって感染症に苦しみ、そしてそれを乗り越えてきました。抗微生物薬や予防接種の開発・普及で数々の感染症が制圧されてきたものの、人類は新型コロナに代表される新興感染症や薬剤耐性菌感染症などによる手痛い逆襲を受けて今に至ります。

感染症診療・感染制御は多くの医師・医療者にとって避けて通ることができない、遭遇頻度・重要性がとも高い領域です。そのような中、感染症専門医は感染症全般に関する知識や感染制御の専門的スキルを背景として感染症対応をリードする、歴史の長い専門医です。感染症医学は診療科横断的であるのみならず、基礎医学・生物学と臨床医学、あるいは理論と実践の融合にその醍醐味がある学際的で魅力に満ちた分野です。

新型コロナについて私たちは多くの職種の方と力を合わせて現場対応から管理業務まで日夜幅広く対応しながら院内のみならず秋田県全体の司令塔としての役割を担っています。一方、感染症の課題は新型コロナ以外にも多くあります。私たちは新型コロナ以前から秋田の感染症の課題解決に取り組んできました。県の要請を受けて新興感染症患者を収容する高度感染症ユニット棟を設計・建設し訓練を重ね、秋田におけるエボラウイルス感染症などのハイリスク新興感染症への対応体制を構築してきました。また、秋田から感染症リスクが高い海外へ赴く渡航者のために、渡航前のリスク評価やワクチン接種等の医療を提供する渡航外来を開設し、“渡航外来空白地域”の解消を達成しました。新型コロナではPCRに代表される微生物の遺伝子検査の重要性が広く認識されましたが、ポストコロナの重要課題である抗菌薬耐性問題も見据え、新型コロナウイルスや薬剤耐性菌を念頭に置いた微生物ゲノム解析環境を整備して秋田の臨床現場に還元する取り組みを行っています。

秋田大学医学部附属病院 感染制御部に専従医師が配置された2020年8月からまだ日が浅いものの、感染症専門医の重要性の認知は急速に進みつつあります。秋田で「よりよい感染症診療の実現」を共に推進し、秋田のみならず日本および世界の感染症診療・感染制御をリードする人材を育成することが私たちの願いです。



プログラムの説明

感染制御部の活動を共に行うことを通じて感染症診療・感染制御の実務経験を積むことができます。多職種が定期的集って院内外の感染症問題を共有し感染対策および抗菌薬適正使用支援の推進を行うICT/ASTラウンド、各診療科からの感染症コンサルテーション対応、感染制御部が関与する各種の教育啓発活動について、担当・参加いただけます。渡航外来は総合診療部と、微生物検査は中央検査部との間でそれぞれ連携しています。本プログラム専攻医を念頭に置き、県内各地から各職種の医療者がリモート参加できる抄読会を早くから実施し、これまで学部学生や県内の医療者にも学会発表を経験いただけてきました。

地方は都市部に比べてリソースが小さいという特性を直視し、地域の実情に合った効率のよい感染症対応を志向する必要があります。一方、現場から地域全体までを守備範囲とする感染症対応に触れる機会が豊富にあることはオールラウンドな対応力の涵養につながり、むしろ地方での研修のほうが得られるものが大きい部分もあります。私たちが秋田に還元するためにこれまで習得・蓄積してきた専門性・ノウハウ・経験・先進技術を余すところなく提供します。

専門医、施設認定など

- 学会施設認定
日本感染症学会認定研修施設
- プログラム担当者が保有する、本プログラムと関連が深い認定医・専門医
日本内科学会 認定内科医・指導医・総合内科専門医、日本感染症学会 感染症専門医・指導医、ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)、日本化学療法学会 抗菌化学療法指導医、日本臨床微生物学会 認定医、日本臨床検査医学会 臨床検査管理医・臨床検査専門医、Certificate in Travel Health™(The International Society of Travel Medicine認定)、日本渡航医学会 認定医療職、日本旅行医学会 認定医・認定留学安全管理者、日本医師会認定産業医、日本環境感染学会 DICT(災害時感染制御支援チーム)リザーブメンバー
- プログラム担当者の修練・研修施設
東北大学、東邦大学、聖路加国際病院

取得までのキャリアパス

医師経験年数	1～2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
		後期研修(専攻医研修)					
Aコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	大学病院(基幹施設) 連携施設(認定施設)			内科専門医取得		感染症専門医取得
Bコース (専門医取得+学位修得) 社会人大学院	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	大学病院(基幹施設) 連携施設(認定施設)			内科専門医取得		感染症専門医取得
		社会人大学院入学				論文	学位修得 留学

あきた外科専門研修プログラム

定員
15名



プログラム統括責任者
消化器外科専門医
プログラム責任者
有田 淳一 教授



プログラム副責任者
心臓血管外科専門医
プログラム責任者
中嶋 博之 教授



プログラム副責任者
小児外科専門医
プログラム責任者
水野 大 病院教授



プログラム副責任者
呼吸器外科専門医、食道外科専門医、
乳腺専門医プログラム責任者
今井 一博 准教授

専門研修 担 当 者 佐藤 雄亮 病院准教授
TEL.018-884-6132 FAX.018-836-2615
連 絡 先 E-mail yusuke@doc.med.akita-u.ac.jp

プログラムの特徴

あきた外科専門研修プログラムの目的と使命は以下の5点です。

- (1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- (2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- (3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェSSIONALとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- (4) 外科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- (5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）またはそれに準じた外科関連領域（乳腺・内分泌外科領域）の専門研修を行い、それぞれの領域の専門医取得へと連動すること

プログラムの説明

2018年から日本の専門医制度は変わりました。19の基本領域に分けられていますが、外科はその1つです。将来、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、小児外科のいずれかの専門医になるためには、まず外科専門医を取得しなければなりません。外科専門医を取得するためには、初期臨床研修医2年目の後半に、日本全国で242ある外科専門研修プログラムのうちどれか1つを選択し、3年目、4年目、5年目の3年間、そのプログラムに属して修練を積み重ねることが必要です。この3年間で手術経験350例以上、術者120例以上をクリアしなければなりません。当プログラムでは余裕をもってクリアすることが可能です。なぜなら年間最大で15名の専攻医を育てられる手術件数があるからです。2018年は10名、2019年は8名、2020年は5名の

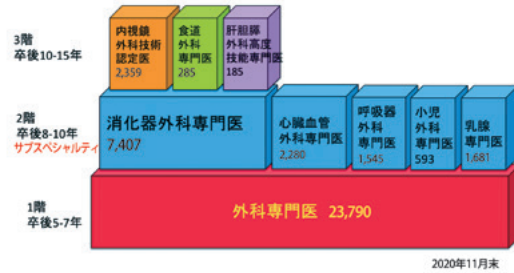
専攻医がプログラムを開始しましたが、まだまだ余裕があります。秋田県内外にある23の関連施設には秋田大学卒の熟練した外科医が多数在籍しており、未来の秋田県の外科医療のために熱意を持って専攻医を育ててくれます。さらにはサブスペシャリティ専門医取得に繋がる高度な指導をしてくれます。

日本全国には32万人の医師がいますが、外科専門医はたった23,790人（2020年11月時点）しかいません。サブスペシャリティ専門医を持っている外科医はさらに少数です。自分の将来のために、自分の存在価値を上げるために専門医を取得しておくことはとても重要です。我こそは/という方は、まずは外科専門医を当プログラムで取得しましょう。

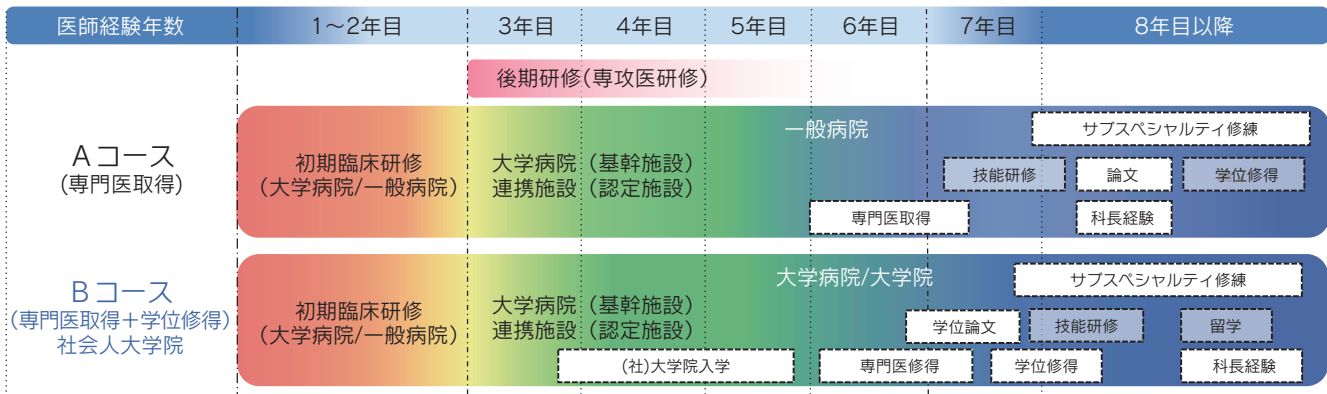
施設認定、関連施設など

秋田大学医学部附属病院を基幹病院として、主に秋田県内の関連施設（23施設）により専門研修施設群を構成します。

外科専門医制度の骨格



取得までのキャリアパス



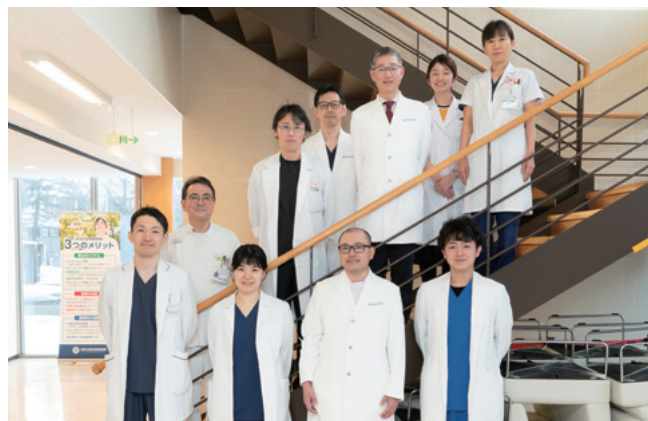
◆主要なサブスペシャリティ:消化器外科専門医、呼吸器外科専門医、心臓血管外科専門医、小児外科専門医、乳腺専門医

消化器外科専門医プログラム



プログラム責任者
消化器外科学講座
有田 淳一 教授

**専門研修
担当者先
連絡先**
渡邊 剛 講師
TEL.018-884-6126 FAX.018-836-2614
E-mail gowata@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~geka1/>



プログラムの説明・特徴

大学病院とはその道のエキスパートが理論的根拠や数多くの経験に基づいて専門的治療を行うところです。その大学病院で大きな手術に携わったり、一例一例をつきつめて診断・治療を行うことは非常に重要です。また、秋田大学では各科の診療領域が競合していないため、各科で専門分野について十分な症例を経験することができます。たとえば消化器外科では胃腸の手術が中心なのは当然ですが、他の病院では少ない肝胆膵癌の手術も非常に多く行っており、特に肝切除数は東北地方でも有数です。外科専門医および、その後の消化器外科専門医取得のための概略を図に示しました。外科専門医取得には一般外科、消化器外科、小児外科、胸部外科、心臓血管外科にかかわる症例を経験する必要があります。関連医療機関ならびに大学内の小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科もローテーションし、症例経験を蓄積します。その後、消化器外科専門医取得希望者は、研修期間、個々の研修目的にあわせ、複数の研修指定病院での研修を行ってまいります。この期間には、内視鏡外科、肝胆膵外科、癌の化学療法などのより専門的な修練もできます。6年目には外科専門医、8年目以降に消化器外科専門医を取得できます。これらの資格は、がん治療認定医、内視鏡外科技術認定医や肝胆膵外科技術認定医の取得に繋がられます。

以上、いくつかのモデルケースを示しましたが、必ずこのとおりにしなくてはならないということではありません。ただ、若い時期に外科医としての基礎を学んでおくことは重要ですし、専門医制度や研究、学位取得、留学など先々の事を考えた場合、最も効率的かつ有意義な後期研修プランと考えています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 各種学会認定専門医数
日本外科学会指導医:2名、日本外科学会専門医:7名、日本消化器外科学会指導医:2名、日本消化器外科学会専門医:4名
- 各種学会施設認定
日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設B
- 指導担当医師数と出身大学
○消化器外科…9名
○医局員の主な出身大学…秋田大学、東京大学、信州大学
- 主な連携病院
秋田赤十字病院、市立秋田総合病院、市立横手病院、中通総合病院、能代山本医師会病院、本荘第一病院など

取得までのキャリアパス

医学部卒後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (専門医取得コース)	初期臨床研修		外科研修連携施設 一般外科修練		大学病院／研修連携施設 消化器外科専門修練		外科専門医取得	消化器外科専門医取得 がん治療認定医へ
Bコース (専門医・技術認定医取得コース)	初期臨床研修		外科研修連携施設 一般外科修練		大学病院 消化器外科専門修練		外科専門医取得 消化管外科中心の修練 内視鏡外科手術等(技術認定医へ) 肝胆膵高度技能手術等(技術認定医へ) 肝胆膵外科中心の修練	消化器外科専門医取得 がん治療認定医へ
Cコース (専門医・学位取得コース)	初期臨床研修		外科研修連携施設 一般外科修練		大学病院 消化器外科専門修練		外科専門医取得	消化器外科専門医取得 がん治療認定医へ 学位取得
							大学院 医学専攻(博士課程)	

呼吸器外科専門医、食道外科専門医、乳腺専門医プログラム



プログラム責任者

胸部外科学講座

今井 一博 准教授

専門研修
担当者
連絡先

佐藤 雄亮 病院准教授
TEL.018-884-6132 FAX.018-836-2615
E-mail yusuke@doc.med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~geka2/>



プログラムの説明・特徴

腫瘍制御医学系胸部外科学講座は呼吸器外科、食道外科、乳腺・内分泌外科を担当しています。当コースでは地域社会から信頼を得られるために最低限身につけておくべき知識および技術を確実に体得できるように若い医師の養成を行っています。具体的には日本外科学会外科専門医を5年目で確実に取得できるプログラムを組んでいます。さらに外科専門医取得後に①呼吸器外科、②消化器外科(食道外科)、③乳腺内分泌外科から一つを選び、呼吸器外科専門医、消化器外科専門医、乳腺専門医のいずれかを7年目以降に取得することを目指します。また、学位取得のために大学院に入学し、研究および論文執筆を外科修練と同時に進めることも可能です。いくら執刀医として手術経験を積んでも、それだけでは何の資格(各種専門医、学位)も取れません。研究、学会発表、論文執筆が必須です。これらの経験をバランスよく積んでもらえるように大学病院と関連病院でローテーションします。

当科ではこれまで多数の海外留学生を輩出してきました。下記のとおりほとんどが米国留学で期間は2年間です。留学中に、基礎研究と論文執筆を主に行いますが、それだけではなく、幅広い人脈をつくること、国際的な感覚を養うこと、そして海外生活を満喫することができます。2年間日本語が通じないところに住む、ということは短期間の旅行と違い、楽しいことだけではなくさまざまなトラブルが必ず起こります。しかし、それを乗り越えることも含めて、日本においては絶対に経験できない貴重な経験をすることができますし、大きな自信に繋がります。留学は本人だけではなく、一緒に行った家族にとっても、その後の人生に必ず大きなプラスになります。

当科は海外から研修に来ている医学部生を積極的に受け入れています。海外からの医学部生と秋田大学医学部生と一緒にさまざまなイベントに参加してもらうことにより、海外に人脈を広げることの楽しさ、そして英語の大切さを感じてもらっています。

国際学会にも積極的に参加しています。国際肺癌学会、国際センテネル学会、国際食道疾患学会、国際乳癌学会など各分野で毎年、世界

各地で開催されています。これらの学会に参加し発表を行うことで経験を積み、また見聞を広めています。

留学先一覧：コロンビア大学(米国ニューヨーク州)、南カリフォルニア大学(米国カリフォルニア州)、メリーランド大学(米国メリーランド州)、ハーバード大学(米国マサチューセッツ州)、ペンシルベニア州立大学(米国ペンシルベニア州)、リオン大学(フランス)、ジョン・ウエイン癌研究所(米国カリフォルニア州)

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

日本外科学会専門医:12名、日本呼吸器外科学会専門医:3名、日本消化器外科学会専門医:4名、日本食道学会食道外科専門医:2名、日本食道学会食道科認定医:3名、日本乳癌学会乳腺専門医:2名

■各種学会施設認定

日本外科学会指導医:4名、日本胸部外科学会指導医:2名、日本消化器外科学会指導医:2名

■指導担当医師数と出身大学・出身高校

- 指導担当医数…21名
- 出身大学…秋田大学、鹿児島大学
- 出身高校…秋田高校、横手高校、大曲高校、本荘高校、広尾高校(東京)、三鷹高校(東京)、浦和高校(埼玉)

■主な連携病院

呼吸器外科修練病院:秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、中通総合病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター、能代山本医師会病院、八戸市立市民病院、平鹿総合病院

消化器外科修練病院:秋田厚生医療センター、由利組合総合病院、雄勝中央病院、平鹿総合病院、北秋田市民病院、能代山本医師会病院、市立角館総合病院

乳腺・甲状腺修練病院:秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、中通総合病院、市立秋田総合病院、由利組合総合病院、雄勝中央病院
その他、県内外の病院で研修を行う

取得までのキャリアパス

医学部卒業後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (専門医取得)	卒後臨床研修		大学/関連病院(学会認定施設)			外科専門医取得		各種専門医取得
Bコース (専門医及び学位取得) 社会人大学院3年目入学	卒後臨床研修			大学院 大学/関連病院(学会認定施設)		外科専門医取得	学位取得	各種専門医取得
Cコース (専門医及び学位取得) 社会人大学院4年目入学	卒後臨床研修				大学院 大学/関連病院(学会認定施設)	外科専門医取得		学位取得 各種専門医取得

心臓血管外科専門医プログラム



プログラム責任者
中嶋 博之 教授

専門研修
担当者
連絡先
中嶋 博之 教授
TEL.018-884-6135 FAX.018-836-2625
E-mail cvs@cvs.med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~sinzou/>



心臓血管外科領域は一般的に重症な患者さんの治療を行う部門であること、しかも全身管理を要することから、あらゆる知識の習得が必要とされる科でもあります。私達の科では、日本国内外での各種学会・研究会はもとより、国際学会へも積極的に参加してグローバルスタンダードとなる医療レベルの研鑽に怠らず、秋田県の医療へ多大なる貢献ができることを使命に日々努力しています。また、国内外の施設への留学によってさらに大きく成長できるよう配慮していきたいと考えています。

プログラムの特徴

医師としての臨床・研究能力を育むばかりではなく、医療に携わる職業人として責任感の強い医師の育成に主眼を置いています。また、医局員一人ひとりが国際的視野に立った臨床および研究ができるよう、国内はもとより海外への学会参加、海外留学も積極的に行えるよう指導しています。さらに本コースで鍛えられた医局員が秋田県から世界に向けて情報発信できるような環境作りを行っています。指導主任である中嶋教授は「ここだけは人に負けないという専門性を確立してほしい。その研究を10年がんばると世界のトップリーダーになれる」と若い医局員たちを激励しています。

また、私達の科は秋田県の心臓血管外科医療の中核としての役割を果たして、地方においても世界的レベルの医療が提供できることを目標としています。



プログラムの説明

選択可能なコースとしては、大学院に入学せず早期の専門医取得を目指すAコースと、大学院で学位を取得した後、専門医を目指すBコースを用意しています。Aコースでは入局1年目(卒後3年目)から循環器疾患の基礎的理解から始まり、術前・術後の全身管理を勉強し、2~3年目(卒後4、5年目)に

おいては大学病院と関連病院にて、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科の研修ができます。外科専門医取得後は、大学病院と関連基幹病院の心臓血管外科をローテートし、心臓血管外科専門医を取得します。Bコースでは、大学院(社会人大学院も含め)で医学博士の学位取得を目指しますが、大学院在学中においてもリサーチと併行して臨床研修の修練を行います。Aコースよりも少々遅れますが、外科専門医と心臓血管外科専門医の取得することには変わりありません。また、両コースとも途中で国内・海外留学が可能です。留学期間は約2年間で、できる限り個々の希望に沿った施設と考えています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

外科認定医・専門医:7名、外科指導医:1名、心臓血管外科専門医:4名、心臓血管外科修練指導医:1名、胸部ステントグラフト指導医:2名、腹部ステントグラフト指導医:1名、植込型補助人工心臓実施医:1名、脈管専門医:1名、下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医:1名、循環器専門医:1名

■各種学会施設認定

日本外科学会修練施設、日本心臓血管外科専門医基幹施設、日本胸部外科学会認定施設、日本循環器学会認定施設、日本ステントグラフト実施基準管理委員会認定施設、植込型補助人工心臓実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設

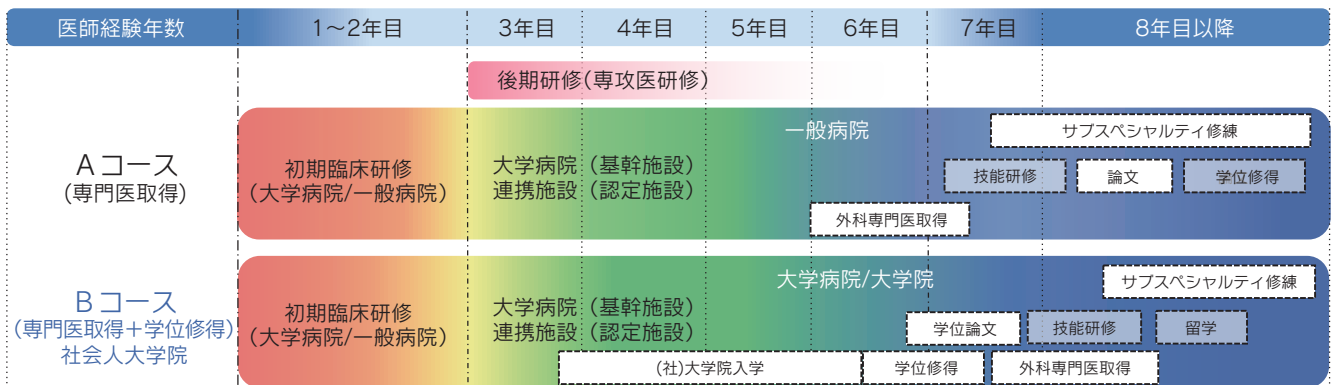
■指導担当医師数と出身大学・出身高校

- 心臓血管外科…9名
- 医局員の主な出身大学医学部…秋田大学、千葉大学
- 出身高校…札幌南高校(北海道)、盛岡第一高校(岩手)、秋田西高校(秋田)、秋田高校(秋田)、横手高校(秋田)、会津高校(福島)、麻布高校(東京)、暁星高校(東京)

■主な連携病院

中通総合病院、由利組合総合病院、平鹿総合病院、市立秋田総合病院

取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:外科専門医、心臓血管外科専門医

小児外科専門医プログラム



プログラム責任者

小児外科学講座

水野 大 病院教授

専門研修
担当者
連絡先

渡部 亮 助教
TEL.018-884-6143 FAX.018-836-0567
E-mail ryowata@gipc.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~syouge/>



プログラムの特徴

小児外科専門医の取得には小児外科認定施設(全国約100施設、国公立大学では24施設)において3年以上の小児外科研修が必要とされています。

当科は小児外科認定制度発足後、すぐに小児外科認定施設に認定され、以来、多くの小児外科専門医が育っています。

秋田県唯一の小児外科認定施設で、年間入院患者数は約150人、年間手術数は約120件で、小児外科指導医のもと、小児外科専門医をめざす医師には十分な臨床経験が可能となっています。

小児外科研修カリキュラムは日本小児外科学会認定施設の専門医教育カリキュラム基準に則ってⅠ～Ⅴまで内容が設定されており、小児外科専従3年間の間に専門医に必要な臨床研修が受けられるようになっています。

プログラムの説明

小児外科専門医の取得の条件として申請時に日本外科学会専門医の資格を有していること、さらに小児外科学会認定施設で専従医として、3年以上の小児外科研修を終了していることが必須となっています。平成30年度から新専門医制度が始まり、外科専門医を取得するためには日本外科学会で認定された外科専門医プログラム(各都道府県にそれぞれプログラムがあり、秋田県ではあきた外科専門医プログラムがあります。)に登録し、基幹病院と関連病院で合わせて3年間の外科研修を受けることが義務づけられています。このため、通常は卒後3～5年は外科専門医プログラムに沿って外科研修を行い、卒後6年目以降に小児外科学会専門医取得のための小児外科研修を受けることとなります。最短で卒後8年終了時には小児外科専門医が取得できることに

なります。また社会人大学院に入り、小児外科研修を受けながら同時に医学博士を取得できるコースも選択できます。大学院入学の時期については、個人の希望や小児外科研修の状況に応じて調整しています。なお、国内の他の小児外科学会認定施設(東京などの小児病院)で1～2年程度の小児外科研修を組み入れることも可能となっています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会専門医、指導医

日本外科学会専門医:4名、日本外科学会指導医:2名、
日本小児外科専門医:1名、日本小児外科学会指導医:2名

■各種学会施設認定

日本小児外科学会認定施設

こどもの未来のために……

いま、小児外科専門医が求められています!

小児は成人のミニチュアではありません。小児科が成人の内科から独立しているように、外科疾患をもつこどもの診療には、小児特有の疾患やその生理学的、解剖学的特徴を良く理解した専門医が必要です。日本では小児外科の概念が発足してまだ60年足らずですが、この間に新生児外科疾患の死亡率は50%から7%に減少し、胆道疾患や小児がんの治療成績も飛躍的に向上してきています。また、小児外科の診療に関しては救命だけでなく、こどもの将来の成長、発達を考慮した手術、治療が必要です。今、全国で小児外科専門医はまだ数百人と少なく、小児外科専門医の育成が強く望まれています。小児外科疾患を有することのために、小児外科専門医を目指す若い人が増えることを期待しています。

取得までのキャリアパス

医師経験年数	1～2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
		後期研修(専攻医研修)					
Aコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	外科専門医研修プログラム 大学病院(基幹施設) 連携施設(認定施設)		大学病院/小児外科認定施設 小児外科修練			小児科専門医取得
				外科専門医取得			
Bコース (専門医取得+学位修得) 社会人大学院	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	外科専門医研修プログラム 大学病院(基幹施設) 連携施設(認定施設)		大学病院/大学院		小児外科修練	小児科専門医取得
					(社)大学院		学位修得

◆主要なサブスペシャリティ:小児外科専門医

脳神経外科専門医プログラム

定員
4名



プログラム責任者
脳神経外科学講座
清水 宏明 教授

専門研修
担当者
連絡先
小野 隆裕 講師
TEL.018-884-6140 FAX.018-836-2616
E-mail t.ono@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~noushin/>



脳神経外科ハンズオンコース
(皮膚縫合、糸結び、顕微鏡下バイパス、血管内コイル塞栓術など)

プログラムの特徴

脳神経外科が扱う領域は脳腫瘍、脳血管障害(脳卒中)をはじめ頭部外傷、機能的疾患(てんかん、三叉神経痛、顔面けいれん)、脊髄脊椎など、多岐に及びます。また、外科治療のみに特化せず薬物療法、リハビリなどを含め、入院・外来を通じて患者さんを全人的に診療します。未知の領域が多い脳神経は研究面でも興味が尽きません。これらのどの分野にどう力を注ぐか、医師の人生のその時々状況に合わせ様々なキャリアパスを形成できる診療科といえます。

①秋田大学脳神経外科プログラムの最大の特徴は神経内科と密に連携し、「神経系総合研修コース」を設けていることです(下記キャリアパス例参照)。このコースでは、脳外科、脳卒中内科、神経内科、さらには神経病理や神経基礎研究などから希望の領域を数ヶ月ずつ主治医等としてしっかり経験することができ、自分の適性を見極めてどの科に進むかを決めることができます。例えば1年をこのコースで過ごしても、脳神経外科専門医取得時期が遅れることはありません。

将来どの科に進むかすでに決めている人でも、それ以外の科を数ヶ月経験することは一生の財産になります。それを可能とする環境を各科共同で構築したのが本コースです。

②秋田大学脳神経外科は、秋田県の脳腫瘍のセンターとして手術、定位放射線治療、化学療法などを行い、脳血管障害・脳卒中・頭部外傷では救急部、脳卒中内科と密接な連携のもと、開頭手術と血管内手術を組み合わせた最先端治療を行っています。その他の領域も関連病院と協力しながら診療しています。

③次の理念に賛同する方の参加を歓迎します。「患者人生を第一とした医療を行うこと。秋田県地域医療の中核としての自覚をもち役割を果たすこと。患者・医療者ともに満足できる医療を行うこと。倫理感・責任感・正直・誠意・模範・情熱において正しくプロフェッショナルであり、知見と経験から学び、自律的・能動的に成長する医師を目指すこと。」

プログラムの説明

秋田大学専門医研修プログラムは大学病院を基幹病院とし、下記の6つの連携施設と7つの関連施設から構成しています(R6.4.1時点)。

これらをローテーションすることで、脳神経外科専門医受験資格である幅広い領域の研修要件を満たし、後期研修5年目夏までの専門医取得を目指します。同時に本プログラムでは専門医取得後の医師としての基盤となるべき患者第一の思考感覚、日常的な問題解決能力、自身を取り巻く環境改善、他者とのコミュニケーションなどについても、臨床、研究、カンファレンスを通じて養うことに努めています。

また、後期研修に入る時点で脳神経系に興味があるが、具体的な科を決めかねている初期研修医向けに、初期研修中や後期研修一年目に脳外科、脳卒中内科、神経内科、病理、基礎系などから希望の領域を実地研修できる「総合神経系研修コース」を設置しています。このコースを経ても脳外科専門医取得までの期間が延長することはありませんし、このコースのあと脳外科以外の科に進みたい方の将来も責任をもってお世話できるよう、上記各科の連携を構築しています。興味ある方は是非相談ください。

専門医、指導医、本プログラム構成施設等

■脳神経外科専門医8名、日本脳卒中の外科学会技術指導医1名、脳血管内治療専門医2名、脳血栓回収療法実施医1名、脳卒中専門医4名、がん治療暫定認定医1名。これらの専門医を取得するための施設認定あり。

■本プログラム構成施設(R6.4.1時点)

※脳血管内治療の研修が可能な病院。

基幹施設:秋田大学医学部附属病院*

連携施設:秋田県立循環器・脳脊髄センター*、由利組合総合病院*、大曲厚生医療センター*、平鹿総合病院*、雄勝中央病院、大館市立総合病院、中通総合病院、能代厚生医療センター*

関連施設:秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院*、庄内余目病院、東北大学*、北里大学*

脳神経外科専門医取得のキャリアパス例

研修コース例	初期研修1年目	初期研修2年目	後期研修1年目	後期研修2年目	後期研修3-4年目	後期研修5年目(卒後7年目)	後期研修6年目(卒後8年目)
1 脳外科専門医通常コース	脳外科や総研等のローテート可		脳外科・脳卒中中	脳外科・脳卒中中	脳外科・脳卒中中	8月に専門医	脳外科・脳卒中中 subspecialty 研修
この間、いずれかの年に大学院入学、学位取得							
2 総合神経系研修(総研研)利用コース	脳外科や総研等のローテート可	総研研の例:脳外3M、神内3M、脳卒中中3M、リハ3M、など。	脳外科・脳卒中中(神経内科等への変更も可能)	脳外科・脳卒中中	脳外科・脳卒中中	8月に専門医	脳外科・脳卒中中 subspecialty 研修
この間、いずれかの年に大学院入学、学位取得							
3 早期学位コース		大学院入学	脳外科・脳卒中中	脳外科 学位取得(最短の場合)	脳外科・脳卒中中	8月に専門医	脳外科・脳卒中中 subspecialty 研修
脳外科や総研等のローテート可 早ければ後期研修2年目に学位取得。以後は脳外科専門医や subspecialty に注力。							

*左記はごく一例です。他にも希望により様々な方法が可能ですので、相談ください。

・神経系各科のどれを選択するか決めかねている人や、決めていたが他の領域の専門的な研修をしてから専門科に専念したいという人は、総合神経系研修(総研研)を検討ください。脳神経外科、神経内科、脳卒中包括医療センター(脳卒中中)、リハビリ科、病理、基礎教室などを自由な数と期間、組み合わせて研修でき、目指す専門医の取得までの期間が遅れないよう計画できます。初期研修中の選択として利用することや、総研研終了後、神経内科など脳外科以外を専攻することも可能です。

・脳血管内治療専門医などの subspecialty は後期研修2-3年目に当該学会に入会し、脳神経外科専門医取得の1-2年後に受験。

・初期研修2年目に大学院入学が可能。学位取得から専門医試験まで余裕ができる。

・脳卒中内科の専門家を目指す場合は、脳外科または神経内科に所属して専門医取得後、脳卒中中での診療に従事する。

小児科専門医プログラム

定員
8名



プログラム責任者

小児科学講座
高橋 勉 教授

専門研修
担当者
連絡先

野口 篤子 講師 ・ 田村 啓成 助教
TEL.018-884-6159 FAX.018-836-2620
E-mail pediatr@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/>



プログラムの特徴

本プログラムでは3年間の専攻医研修の中で小児科の各領域をバランスよく研修し、一般診療の知識と技術の習得が得られるようカリキュラムを作成しています。大学病院およびNICU研修を必須として高度医療に触れる一方、地域基幹病院では基本的な一般診療のみならず予防医療や地域医療・在宅医療などから重症児の治療までを経験することで小児科医としての対応力が十分身につきます。また、複数の医療機関で経験値を上げていくことは、幅広い視点を養う点で大変重要です。

プログラムの説明

プログラムの基本は以下のようになっています。

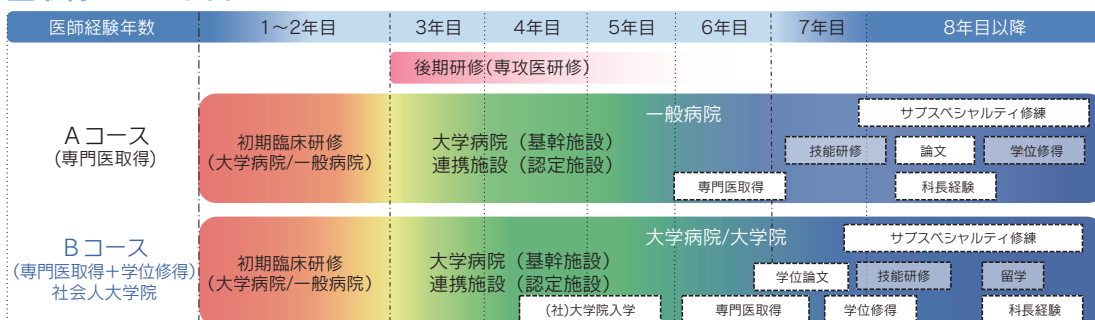
- * 当院の研修: 6ヶ月 (必修)。3次医療機関であり上級医と共に各分野の専門性の高い疾患の診療に関わります。基本的な手技の習得、診断プロセスの学習、クルズスなどがあります。
- * 平鹿総合病院・市立秋田総合病院・秋田赤十字病院: 12ヶ月。県内小児医療の中核的な二次医療施設で第一線の一般診療に携わります。小児の一般疾患において診断から治療までを一通り経験することになります。
- * 秋田赤十字病院NICUまたは当院NICU: 6-12ヶ月。小児医療において不可分となる新生児医療について集約された研修を行います。
- * 他の関連施設: 12-18ヶ月。6ヶ月単位を軸として2-3の関連病院で研修を行います。診療の経験を積み、スキルアップを目指します。

これらは各専攻医の希望に応じて適宜変更も受け付けています。
3年間の研修のなかで指導医や大学と情報交換しながら専門医申請のための症例報告(論文)や経験症例のまとめを作成し、専門医受験の準備を進めることができます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設 など

- 各種学会認定専門医数
日本小児科学会専門医 16名、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医 3名、日本小児循環器学会専門医 2名、成人先天性心疾患専門医 1名、日本血液学会血液専門医 2名、日本周産期・新生児学会周産期(新生児)専門医 3名、日本内分泌学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 1名、新生児蘇生法専門コース(Aコース)インストラクター 1名
- 各種学会認定指導医
日本小児科学会指導医 10名、日本内分泌学会指導医 1名、日本人類遺伝学会臨床遺伝指導医 1名
- 各種学会施設認定
日本小児科学会専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本小児循環器学会専門医、日本血液学会血液専門医、日本周産期・新生児学会周産期(新生児)専門医、日本小児神経学会専門医、日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医
- 出身大学・出身高校
主な出身大学: 秋田大学、群馬大学、自治医科大学
主な出身高校: 秋田、横手、聖霊、能代、大館鳳鳴、札幌旭丘、札幌南、水沢、仙台第二(宮城)、日立第一、水戸第一(茨城)、駒場東邦、千葉、静岡
- 主な連携病院
秋田県小児医療療育センター、秋田赤十字病院、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター、市立秋田総合病院、平鹿総合病院、中通総合病院、能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、大館市立総合病院

取得までのキャリアパス



- ◆ 主要なサブスペシャリティ:
日本小児科学会専門医
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医
日本小児循環器学会専門医
日本血液学会血液専門医
日本周産期・新生児学会周産期(新生児)専門医
日本小児神経学会専門医
日本内分泌学会専門医
日本腎臓病学会専門医
てんかん専門医
PALSインストラクター

産婦人科専門医プログラム

定員
7名



プログラム責任者
産婦人科学講座
寺田 幸弘 教授

専門研修
担当者
連絡先
三浦 広志 准教授
TEL.018-884-6163 FAX.018-884-6447
E-mail miurah@doc.med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/>



プログラムの特徴

秋田大学産婦人科専門医プログラムでは秋田大学医学部附属病院を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導に責任もって取り組んでいます。

大学病院においては、一般市中病院では経験しにくい最重症度の患者に対する最新の標準治療を経験していただけます。3年間の研修期間のうち少なくとも6ヶ月間は基幹施設での研修が必要となります。

各連携施設にはそれぞれ得意とする産婦人科診療領域があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートすることで生殖医療、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケアの4領域をバランスよく研修する事が可能となります。

プログラムの説明

専攻医の研修期間は3年間です。研修修了年の翌年度(通常専攻医研修の4年目)に産婦人科専門医試験を受験することになります。研修修了には実地経験目録(分娩150例以上、単純子宮全摘出術執刀10例以上など)、症例レポート、症例記録、学会・研究会の出席・発表、学術論文などが必要となります。詳細は当科ホームページ(<http://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/skp04.html>)をご参照ください。

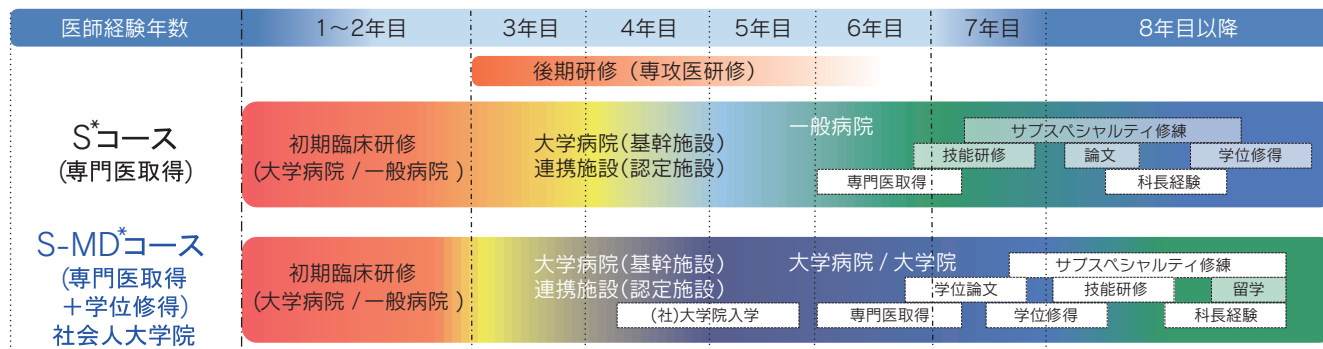
研修は基幹施設である秋田大学医学部附属病院ならびに秋田県内の連携施設にて行います。大学病院においては、婦人科悪性腫瘍、腹腔鏡下手術、合併症妊娠や胎児異常、産科救急そして体外受精を中心とした高度生殖医療を中心に研修していただけます。一方、連携施設においては、一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理および不妊症の診断、検査などを中心に研修していただけます。外来および入院診療において、治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となります。

連携施設は以下の12施設です。

能代厚生医療センター、北秋田市民病院、秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、中通総合病院、秋田赤十字病院、大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、雄勝中央病院、由利組合総合病院、市立横手病院、市立角館総合病院。

基幹病院である大学病院を中心として、これらの連携施設をローテートすることで産婦人科のすべての領域をバランスよく研修することが可能となり、また修了要件を満たすのに十分な症例数を経験することができます。連携施設での研修は1年毎のローテーションを基本としていますが、諸状況により個々に最善のプログラムを作成していきます。

取得までのキャリアパス



S*: Specialist (専門医)
MD*: Medical Doctor (博士)

◆主要なサブスペシャリティ: 周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医

精神科専門医プログラム

定員
8名



プログラム責任者

精神科学講座

三島 和夫 教授

専門研修
担当者
連絡先

吉沢 和久 助教
TEL.018-884-6122 FAX.018-884-6445
E-mail kyoshiz2@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin/senmonkenshuupro.html>



プログラムの特徴

秋田大学の精神科学講座は2023年に設立50周年を迎えたところです。その半世紀にわたる歴史は、地域医療への貢献はもちろん、モットーである“自由闊達”の下に進められた様々な独創的・先端的な研究とともに歩んできました。本プログラムはこうした歴史を土台として築かれています。

本プログラムを構成するのは拠点病院である秋田大学医学部附属病院と、県内18施設、岩手県内1施設の19の連携施設です。大学院では精神科の基本を学べるだけでなく、高度専門医療や児童思春期の診療を経験することができ、その手厚さと専門性が特長です。救急拠点病院では急性期患者や触法患者の対応、総合病院では身体合併症管理やリエゾン精神医療、精神科専門病院では精神科リハビリテーションなど幅広い領域の経験を積むことができます。県内の精神科関連病院が一丸となって作り上げているプログラムだからこそ、多岐にわたる臨床経験を可能にしています。

また、本講座は睡眠・覚醒障害、気分障害などの病態生理や診断治療に関する先端的な研究を行ってきました。近年ではウェアラブルデバイスやAI/IoT技術を用いた睡眠・行動リズム障害に関する研究や薬剤疫学研究にも注力しており、その成果を国内外に発信しています。関心のある専攻医は早期からこれらの研究にも参加できます。

プログラムは基本的に専攻医自身の希望や能力に合わせたアレンジが可能であり、産休・育休にも柔軟に対応しています。女性医師も多く、2023年度には所属専攻医の5割が女性でした。専門医取得まで指導医が責任を持って教育にあたり、上級医がそれをサポートする体制が確立されています。

プログラムの説明

基本となる研修期間は3年間で。

1年目は基幹病院である大学院で研修をスタートします。指導医のもとで精神科医としての基本を学びつつ、修正型電気けいれん療法やクロザピンなど難治疾患に対する高度な医療、児童思春期への専門性の高い医療を体験することができます。

2年目、3年目は連携施設全てが研修先の候補となります。救急拠点病院、総合病院、精神科専門病院など各々の施設によって経験できる症例は異なりますが、どの施設であっても専攻医は主体的に治療に関わることが求められます。例として、急性期症例であれば入院時のファーストタッチから治療導入、良好な関係作り、退院へのケースワークまで一貫して主治医として携わります。学問的価値の高い経験症例については全国規模の学会で発表することができるよう指導を受けられます。

3年間の研修修了後に精神科専門医を取得し、サブスペシャリティの修練に進んでいきます。並行して、精神科臨床において重要となる精神保健指定医資格の取得も目指します。

研修期間のどのタイミングであっても大学院に入学し、社会人大学院生として研究を開始することができます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■専門医・指導医

精神保健指定医8名、精神神経学会専門医・指導医8名、睡眠学会専門医・指導医3名、老年精神医学会専門医・指導医2名、認知症学会専門医・指導医1名、薬物療法専門医・指導医2名、一般病院連携精神医学会専門医・指導医1名

■施設認定

精神神経学会認定施設、老年精神医学会認定施設、認知症学会認定施設、臨床精神薬理学会認定施設、日本総合病院精神医学会認定施設

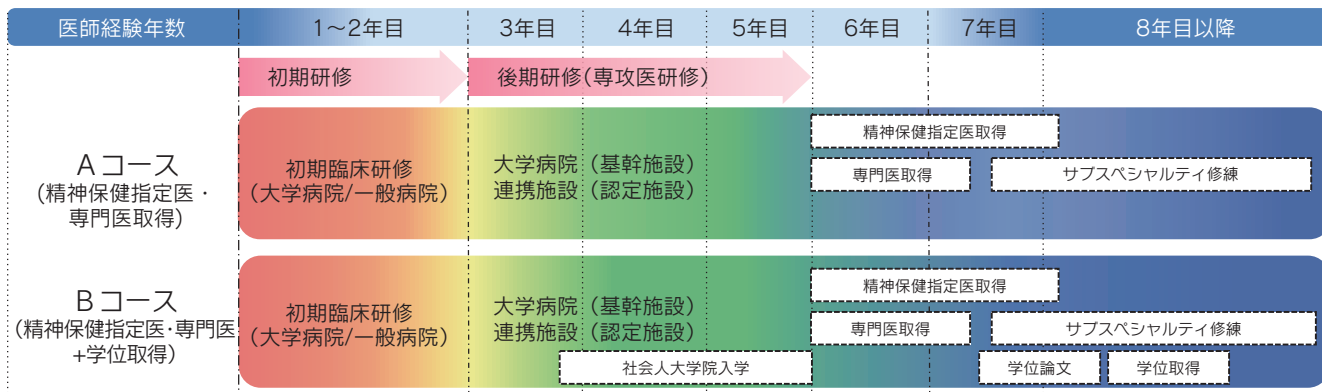
■出身大学

秋田大学、弘前大学、岩手医科大学、東北医科薬科大学、金沢大学、東京女子医科大学、神戸大学、熊本大学など

■連携病院（秋田県内18施設、岩手県1施設）

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、能代厚生医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院、杉山病院、今村病院、秋田緑ヶ丘病院、清和病院、秋田東病院、秋田回生会病院、加藤病院、笠松病院、協和病院、菅原病院、象潟病院、横手興生病院、南光病院

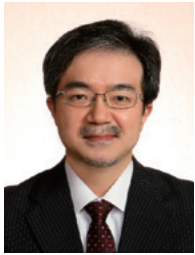
取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:睡眠学会専門医、老年精神医学会専門医、認知症学会専門医、一般病院連携精神医学会専門医、精神科薬物療法専門医 など

整形外科専門医プログラム

定員
8名



プログラム責任者
整形外科学講座
宮腰 尚久 教授

専門研修
担当者
連絡先
永澤 博幸 医学部講師
TEL.018-884-6148 FAX.018-836-2617
E-mail seiikei@doc.med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~seiikei/>



プログラムの特徴

本プログラムの特徴は、十分な臨床能力の獲得とともに研究遂行能力も養うことで、世界でも戦える整形外科医を育成することです。その道筋として、日本整形外科学会3学術集会(学術総会、基礎学術集会、骨軟部腫瘍学術集会)をはじめとして、日本脊椎脊髄病学会、日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、日本リハビリテーション医学会、日本リウマチ学会、日本膝関節鏡スポーツ整形外科学会、日本股関節学会、日本骨折治療学会、日本四肢再建・創外固定学会、日本手外科学会、日本人工関節学会など、多くの学会での発表の機会を設けます。発表演題は一流英文雑誌への投稿から採択までを指導します。

さらに、国際学会[米国骨代謝学会(ASBMR)、米国整形外科学会(AAOS)、米国手外科学会(ASSH)、欧州リウマチ学会(EULAR)など]での発表の機会があります。また、希望者には専門研修中あるいは専門医取得後に国内外での病院研修も行っています。いわゆるコロナ禍の時期には中断していましたが、コロナ禍前の実績としては獨協医科大学埼玉医療センター(埼玉県:外傷学や創外固定法の研修)、羊ヶ丘病院(札幌市:足の外科や関節鏡手術の研修)、カルフォルニア大学サンフランシスコ校附属病院(サンフランシスコ州:外傷学の研修)での研修を行っていました。

プログラムの説明

秋田大学の整形外科専門医コースでは、専門医資格と学位(医学博士)の両方を取得します。本コースでは、それぞれの取得までの期間が最短に設定されていることが大きな特徴です。2000年以降の入局者の学位および専門医取得率は100%です。学位論文は一流英文誌へ投稿しますが、早ければ、学位と専門医を同時に取得することが可能です。また、外科系の医師にとって手術手技の習得などの臨床能力を高めることは非常に重要です。秋田大学整形外科の研修は、秋田県全域の関連病院で行われるため、満遍なく多くの疾患を学ぶことができますし、さらに、それぞれの研修施設に、脊椎脊髄外科、股関節外科、膝関節外科、足関節外科、肩肘関節外科、手外科、外傷、小児整形外科、リウマチ、リハビリテーションなどを専門とする優秀な人材が赴任しています。そのために整形外科疾患全般をバランスよく経験でき、その中から将来の専門分野を選択できます。手術は難易度に従って段階的に研修初期から執刀できますので、コース終了までには非常に多くの多岐にわたる

手術手技を習得できます。また、どの関連病院に勤務していても、大学病院が主導で毎月7~8回行っているオンラインでの臨床研究ミーティングに参加できるため、整形外科領域すべての最新の知識を常にアップデートすることができます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数(秋田大学医学部附属病院整形外科、リハビリテーション科)
日本整形外科学会専門医:15名、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医:6名、日本脊椎脊髄病学会指導医:6名、日本脊椎脊髄病学会・日本脊髄外科学会脊椎脊髄外科専門医:6名、日本整形外科学会認定スポーツ医:3名、日本関節鏡膝スポーツ整形外科学会関節鏡技術認定医:1名、日本リハビリテーション医学会専門医:3名、日本骨粗鬆症学会認定医:5名

■各種学会施設認定
日本整形外科学会、日本脊椎脊髄病学会、日本リウマチ学会、日本リハビリテーション医学会の認定施設

■指導担当医師数と出身大学・出身高校
○14名
○主な出身大学…秋田大学、関西医科大学
○出身高校…秋田高校、仙台二高、千葉東、福島高校、青森高校、札幌北、県立千葉、弘前高校、大館鳳鳴、横手、本荘、盛岡一高

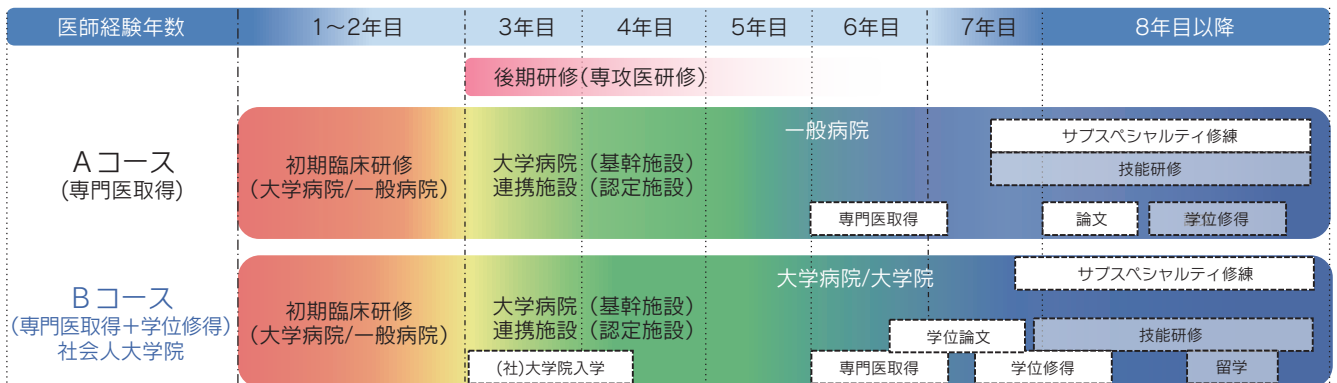
■主な連携病院
秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、市立秋田総合病院、中通総合病院、秋田県立医療療育センター、秋田労災病院、北秋田市民病院、能代厚生医療センター、男鹿みなと市民病院、湖東厚生病院、大曲厚生医療センター、市立角館総合病院、市立大森病院、市立横手病院、平鹿総合病院、雄勝中央病院、町立羽後病院、由利組合総合病院、本荘第一病院

■応援病院
能代山本医師会病院、大湯リハビリテーション病院、県立リハビリテーション・精神医療センター、国立病院機構あきた病院、佐藤病院、市立田沢湖病院、五十嵐記念病院、藤原記念病院

■プロスポーツサポート
秋田ノーザンハピネッツ、ブラウブリッツ秋田、アランマーレ秋田、北都銀行バドミントン部

■課外活動
バスケットボール、バドミントン、硬式テニス、野球、剣道、陸上、サッカー、書道

取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:脊椎脊髄病専門医、手外科専門医、リウマチ専門医

皮膚科専門医プログラム

定員
4名



プログラム責任者

皮膚科学・形成外科学講座
河野 通浩 教授

専門研修
担当者
連絡先

能登 舞 助教
TEL.018-884-6153 FAX.018-836-2618
E-mail dermatol@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~hihuka/>



プログラムの特徴

秋田大学皮膚科の特徴は、症例数が多く、一般的な皮膚疾患、自己免疫性疾患、皮膚の良性腫瘍から悪性腫瘍まで幅広く診療・治療を行っていることです。このため、皮膚に関連したあらゆる疾患に対応できる臨床医を目指すことが可能です。具体的には、臨床診断、病理診断から治療計画を立て、手術や術後のフォローまで一貫してマネジメントできる皮膚科医を養成できるようにプログラムを立てています。手術に関しては、形成外科専門医もいるため腫瘍切除後の再建や血管外科などの技能研修も可能です。

プログラムの説明

主なキャリアパスモデルとして、臨床研修を行い、皮膚科専門医取得を目指すコースと皮膚科専門医取得の研修をいくつか並行して研究を行い、学位取得も目指すコースがあります。

どちらのプログラムも専門医取得のため、診断学(内科的・病理学的)、検査(アレルギー、組織など)、治療学(内服・外用治療、光線療法、外科的治療、化学療法、緩和ケア)、そして美容療法など、すべての分野を学ぶことができ、学んでいく中で、自分のサブスペシャリティを探していくことが可能で、専門医取得に必要な学会発表や論文執筆(和文・英文)も屋根瓦方式でしっかりと指導する体制が整っています。

また、疾患を診断・治療していく中で疑問に思ったことを研究できるサポート体制も整えていますので、途中から研究も行い、学位取得を目指していただくコースもあります。大学院は社会人入学だけでなく、一般入学で研究に専念することも可能です。

基本的にチーム制・オンコール体制をとっているため、空いた時間を有効に使って、各種勉強会や学会参加、研究、趣味や家族との時間を大切にできるようにしています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医: 11名

日本形成外科学会専門医: 2名

■出身大学・出身高校

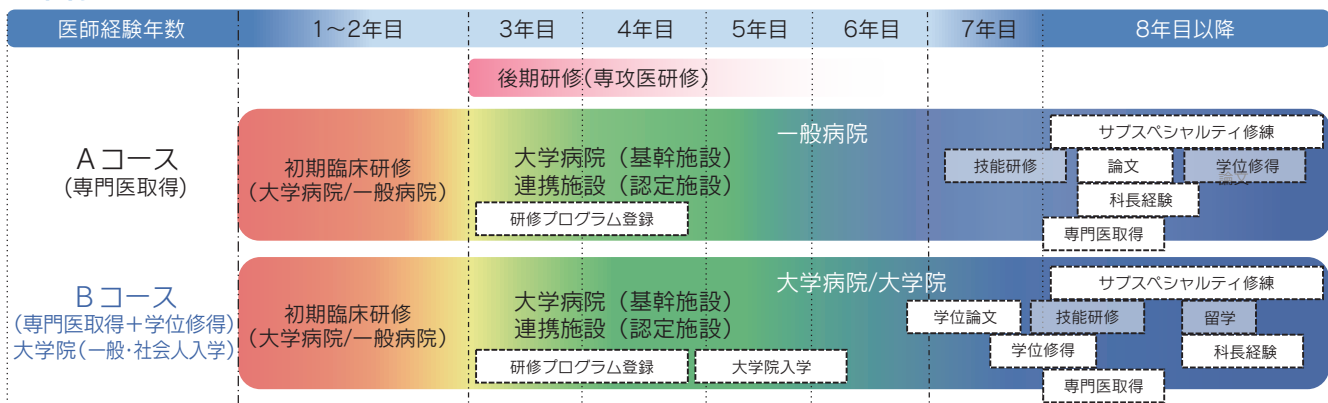
○医局員の主な出身大学医学部…秋田大学、近畿大学、千葉大学、獨協医科大学、山梨大学、杏林大学

○出身高校…秋田高校、横手高校、長田高校、桐蔭学園高校、寒河江高校、酒田東高校、能代高校、秋田南高校、東邦大学付属東邦高校

■主な連携病院

市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、大曲厚生医療センター、能代厚生医療センター

取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ: 皮膚悪性腫瘍専門医、美容皮膚科・レーザー指導専門医

泌尿器科専門医プログラム

定員
7名



プログラム責任者
腎泌尿器科学講座
羽瀧 友則 教授

**専門研修
担当者先
連絡先**
齋藤 満 准教授(血液浄化療法部)
TEL.018-884-6156 FAX.018-836-2619
E-mail urosaito@gmail.com
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~hinyoki/>



プログラムの特徴

秋田県で唯一の泌尿器科専門医研修プログラムです。本プログラムにより、腎泌尿器領域の外科的疾患に対する基本的な診療知識や技能のみならず、泌尿器腫瘍学(前立腺癌、尿路上皮癌、腎癌、精巣癌)、腎移植、血液透析、腹膜透析を含む総合腎不全医療、小児泌尿器科疾患、神経泌尿器科や尿路結石、骨盤性器脱、排尿障害、泌尿器感染症を含む内科的泌尿器疾患、男性不妊症などの基本的診療知識や技能が身につきます。研修基幹施設である秋田大学医学部附属病院においてはロボット支援手術や腹腔鏡手術、腎移植を含む高度医療に携わり、また地域医療を担う基幹教育施設での研修を経て秋田県の泌尿器科と腎不全医療の事情を理解し、泌尿器科専門医として秋田県や日本の医療を支える人材を育成します。さらには基礎研究および臨床研究の論文作成を通じて、科学的に思考し世界に情報を発信できる人材を育成します。高齢化社会を鑑み、高齢者を診る機会が多い泌尿器科の役割はますます高まっています。バランスの取れた幅広い診療分野と、ロボット支援手術など治療技術のヴァリエーションの多さが魅力です。

プログラムの説明

秋田大学医学部附属病院を研修基幹施設とし、11の日本泌尿器科学会認定基幹教育施設および研修協力施設からなる合計21の連携施設から構成されています。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しています。同時にロボット支援手術、腹腔鏡手術、小児泌尿器科、女性泌尿器科、排尿障害、尿路結石、腎移植、透析医療、生殖医療、緩和医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティの研修も十分に経験できます。さらに、秋田大学医学部附属病院では、臨床研究や基礎研究を行うことができます。また、専門研修後は、大学院への進学や専門分野の研修も可能です。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 秋田大学医学部附属病院における専門医(指導医数)
日本泌尿器科学会専門医15名、日本泌尿器科学会指導医6名、日本透析医学会専門医5名、日本透析医学会指導医2名、日本癌治療学会癌治療認定医5名、日本泌尿器内視鏡学会技術認定医7名、日本内視鏡外科学会技術認定医7名、日本移植学会移植認定医3名、日本臨床腎移植学会認定医3名
- 日本泌尿器科学会拠点教育施設(指導医数)
市立秋田総合病院(5名)、秋田赤十字病院(4名)、大曲厚生医療センター(3名)、平鹿総合病院(3名)、由利組合総合病院(3名)、秋田厚生医療センター(3名)、能代厚生医療センター(2名)、岩手県立胆沢病院(4名)、十和田市立中央病院(1名)、国立病院機構水戸医療センター(3名)、大館市立総合病院(1名)(11施設)
- 日本泌尿器科学会関連教育施設、研修協力施設
市立横手病院、明和会中通総合病院、能代山本医師会病院、市立角館総合病院、湖東厚生病院、男鹿みなと市民病院、北秋田市民病院、藤原記念病院、本荘第一病院、盛岡友愛病院
- 指導医の出身大学、出身高校
主な出身大学: 秋田大学、京都大学
主な出身高校: 秋田高校、洛北高校、福島県立福島高校、盛岡第一高校、札幌北陵高校、桐蔭学園、仙台第一高校、水戸第一高校
- 指導医の海外留学経験先
M.D. Anderson Cancer Center, USA(膀胱癌の研究)
University of British Columbia, Canada(前立腺癌の研究)
Sydney University Children's Hospital at Westmead(腎移植の研究)
Harvard Medical School, USA(腎癌の研究)
Yale School of Medicine(がん免疫の研究)

あきた泌尿器科専門医研修プログラムキャリアパス



秋田大学医学部附属病院

泌尿器科専門医プログラム

眼科専門医プログラム

定員
4名



プログラム責任者

眼科学講座
岩瀬 剛 教授

専門研修
担当者
連絡先
岩瀬 剛 教授
TEL.018-884-6167 FAX.018-836-2621
E-mail tiwase@med.akita-u.ac.jp
HP <https://eye-akita-u.jp/>



プログラムの特徴

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。秋田大学眼科専門医プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。

1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
2. 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
3. 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

プログラムの説明

秋田大学医学部附属病院では、幅広い分野の紹介患者があり、2023年の手術件数は約1800件であり、網膜硝子体、白内障、緑内障を含め、眼科専門医が研修すべき、ほぼすべての手術を施行しています。

入院手術日は週に2日（火曜日と木曜日）あり、それに伴って、主治医グループは火曜グループと木曜グループにわかれ、各グループをローテーションします。外来診療は、手術日以外の月・水・金曜日を中心として行います。ローピジョン、遺伝相談等は外来で行い、プログラム統括責任者が指導します。

各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置を習得し、それぞれのプログラムの到達目標を目指します。毎週行っている症例カンファレンスにも参加します。周産母子センター、外来化学療法室等を備えた医師臨床研修指定施設なので、他科との連携委員を中心に、あらゆる全身疾患に関わる眼症状も研修します。また、学会報告や論文作成の機会も豊富にあります。当院での研修期間中は、こうした活動の機会を得やすいよう配慮しています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■専門研修基幹施設：秋田大学医学部附属病院

- プログラム統括責任者：岩瀬 剛（教授、診療科長）
副責任者：西山 俊吾（医員）
指導医管理責任者：岩瀬 剛（教授、診療科長）
副責任者：向後 二郎（准教授）
指導医：西山 俊吾（医員）
佐藤 真理子（助教）
専門医：岩瀬 千絵（医員）
坂本 貴子（医員）

■専門研修連携施設

[Aグループ] 地域医療を担う病院

- 指導管理責任者1名が配置されており、非常勤医師2名、スタッフ4名
雄勝中央病院 指導管理責任者：後藤 豊（眼科専門医）
大曲厚生医療センター 指導管理責任者：高橋 永幸（眼科専門医）
平鹿総合病院 指導管理責任者：渡部 広史（眼科専門医）

[Bグループ] 地域の中核病院

- 指導管理責任者1名が配置されており、スタッフ4名以上
中通総合病院 指導管理責任者 眼科専門医：羽淵 由紀子
秋田赤十字病院 指導管理責任者 眼科専門医：澤田 有
秋田厚生医療センター 指導管理責任者 眼科専門医：早川 宏一

■関連病院

- 町立羽後病院、市立横手病院、由利組合総合病院、能代厚生医療センター、男鹿みなと市民病院、湖東厚生病院、南秋田眼科医院、藤原記念病院、秋田県立医療療育センター、秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、市立秋田総合病院

取得までのキャリアパス

医学部卒後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (専門医+学位コース)	卒後臨床研修	大学病院/関連病院 (研修施設) 一般眼科修練	眼科専門修練				眼科専門医 取得	学位取得
Bコース (専門医+学位コース)	卒後臨床研修	大学院 (社会人大学院を含む)				学位取得	大学病院 研修病院 眼科専門医 取得	
Cコース (専門医+学位コース)	卒後臨床研修	大学病院 関連病院 (研修施設)	大学院 (社会人大学院を含む)				眼科専門医 取得	学位取得
		大学院	眼科領域研修委員会に申請を行い、認められれば臨床実績を算定できる。					



耳鼻咽喉科専門医プログラム

定員
4名



プログラム責任者
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座
山田 武千代 教授

鈴木 真輔 准教授
TEL.018-884-6171 FAX.018-836-2622
E-mail suzukis@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/otorhinolaryngology.html>



プログラムの特徴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的治療のみならず内科的治療も必要とし、幅広い知識と医療技能の習得が求められています。秋田大学耳鼻咽喉科専門医プログラム(以下、秋田大学耳鼻科 PG)では、医療の進歩に応じた知識・医療技能を持つ耳鼻咽喉科専門医を養成し、医療の質の向上と地域医療に貢献することを目的としています。また、診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じ、科学者としての能力を習得することも目標としています。

プログラムの説明

秋田大学耳鼻咽喉科専門医PGでは、専門研修基幹施設である秋田大学病院と、地域医療を担う病院(能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、大曲厚生医療センター)計4の研修施設において、それぞれの特徴を活かした耳鼻咽喉科研修を行い、日本耳鼻咽喉科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。

4年間の研修期間の内、1年目は秋田大学病院で耳鼻咽喉科の基本的知識、診療技術を習得します。2年目～3年目は、地域医療を担う病院群のいずれかにおいて研修を行います。地域医療を担う病院群は、Common disease の症例数が豊富で鼻科手術や扁桃摘出術件数が多く、救急疾患も多く扱う病院群ですので、地域医療を担う病院群の研修で基本手術手技や救急疾患の対応などを習熟します。3～4年目は秋田大学病院で研修を行います。秋田大学病院では、幅広く耳鼻咽喉科疾患の治療を手掛け耳鼻咽喉科全域に渡る手術を経験できます。また専門領域に特化した研修が可能です。秋田大学病院では、頭頸部がん診療やアレルギー診療を専門とする指導医の指導を受けられるなど、高度な研修が可能です。また、社会人大学院へ進学し、診療・研修を行いながら基礎研究や臨床研究を行う事も可能です。

秋田大学病院では、週1回の症例検討カンファレンス、月に1回の病理検討会など開催しており、病態や治療概念などを学び、日々の研修に行かすことができます。

また、4年間の研修中、日本耳鼻咽喉科認定学会において学会発表を少なくとも3回以上、また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・公表を行います。そのために積極的に科学的根拠となる情報を収集、分析し、日々の診療に活かすよう、日頃から科学的思考、生涯学習の姿勢を身につけます。プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに指導管理責任者(専門研修連携施設)、指導医、および専攻医が行い、プログラム責任者が最終評価します。4年間の研修終了時にはすべての領域の研修到達目標を達成させて、研修の評価や経験症例は学会が定めた方法でオンライン登録します。



専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医: 8名、指導医: 4名
- 日本気管食道科学会専門医: 1名
- 日本アレルギー学会認定専門医: 1名、指導医: 1名
- 日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医: 2名、指導医 1名
- 日本鼻科手術専門医: 1名、指導医 1名
- 日本耳科手術専門医: 1名、指導医 1名

■各種学会施設認定

- 日本耳鼻咽喉科学会認定施設、日本気管食道科学会認定研修施設、日本頭頸部外科学会頭頸部がん認定研修施設、日本アレルギー学会日本鼻科学会日本耳科学会認定教育施設

■指導担当医師数と出身大学・出身高校

- 指導担当医数…4名
- 医局員の主な出身大学医学部…秋田大学、福井大学
- 出身高校…秋田高校(秋田)、横手高校(秋田)、駒場東邦高校(東京)、武生高校(福井)、大田原高校(栃木)、新潟高校(新潟)、静岡雙葉高校(静岡)、能代高校(秋田)、仙台第二高校(宮城)、秋田南高校(秋田)他

■主な関連病院

- 市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、大曲厚生医療センター、能代厚生医療センター、秋田赤十字病院、中通総合病院、北秋田市民病院、男鹿みなと市民病院、市立角館総合病院、市立田沢湖病院、秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、市立大森病院

■主な留学先

- シカゴ大学(シカゴ、米国)、ドレスデン工科大学(ドレスデン、ドイツ)、ピッツバーグ大学(ピッツバーグ、米国)、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(米国)

取得までのキャリアパス

医師経験年数	1～2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
サブスペシャリティ重点コース(サブ領域の症例を重点的に経験)	初期臨床研修(大学病院/一般病院)	後期研修(専攻医研修)	サブスペシャリティ修練	論文 学位取得	専門医取得	技能研修	科長経験
サブスペシャリティ重点コース(専門医取得 学位修得 社会人大学院)	初期臨床研修(大学病院/一般病院)	大学院(基幹施設) 連携施設(認定施設)	大学院(一般病院)	専門医取得	論文 学位取得	技能研修	科長経験

- ◆主要なサブスペシャリティ:
1. 頭頸部がん専門医 2. アレルギー専門医 3. 気管食道科専門医
4. 補聴器適合判定医 5. めまい相談医 6. 臨床遺伝専門医

放射線科専門医プログラム

定員
4名



プログラム責任者

森 菜緒子 教授

専門研修
担当者
連絡先

森 菜緒子 教授
TEL.018-884-6179 FAX.018-836-2623
E-mail nmori@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~housya/>



プログラムの特徴

放射線科専門医を取得するための県内唯一のプログラムとなっております。
放射線科診断専門医および放射線科治療専門医のいずれも選択可能です。
卒後臨床研修終了後、大学病院のみならず、関連病院に勤務しつつ、専門医の取得が可能です。学位の取得が可能なコースもあります。

プログラムの説明

AコースからDコースまで4種のコースがあります。Aコースは専門医取得をまず目標とします。Bコースは卒後8年目に専門医と同時に学位の取得も可能となるコースです。Cコースは大学院に入学し、卒後6年目に学位を取得し、8年目に専門医を取得します。Dコースは関連病院などで他科に勤務しつつ、放射線科の専門医の取得を目指すコースです。



専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 各種学会認定専門医数**
 日本医学放射線学会放射線診断専門医6名、日本医学放射線学会治療専門医3名、日本核医学会核医学専門医5名、日本核医学会PET認定医3名、日本IVR学会IVR専門医5名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医1名、日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ読影認定医4名
- 各種学会施設認定**
 日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本核医学会専門医教育病院、日本IVR学会専門医修練施設
- 医局員紹介(出身大学・高校)**
 主な出身大学: 秋田大学、自治医科大学、東北大学
 主な出身高校: 秋田高校、横手高校、大館鳳鳴高校、能代高校、秋田南高校、山形東高校、群馬県立前橋高校、一関工業高校、桜蔭高校
- 主な連携病院**
 秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院、秋田県立循環器・脳脊髄センター、平鹿総合病院、大曲厚生医療センター、由利組合総合病院、能代厚生医療センター、市立横手病院、雄勝中央病院、能代山本医師会病院、市立角館総合病院

取得までのキャリアパス

医学部卒業年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
Aコース (基本コース)	卒後臨床研修		大学／関連病院→			放射線科 専門医		放射線診断・ 治療専門医
Bコース (学位取得コース)	卒後臨床研修		大学／関連病院→			放射線科 専門医		放射線診断・ 治療専門医 学位取得
Cコース (大学院コース)	卒後臨床研修		大学／関連病院→ 大学院入学			放射線科 専門医 学位取得		放射線診断・ 治療専門医
Dコース (他科研修コース)	卒後臨床研修		他科診療→ 放射線科専門医コース					

リハビリテーション科専門研修プログラム

定員
2名



プログラム責任者
リハビリテーション科
粕川 雄司 准教授

専門研修 粕川 雄司 准教授
担当者 TEL.018-884-6372 FAX.018-884-6354
連絡先 E-mail kasukawa@doc.med.akita-u.ac.jp



プログラムの特徴

- 秋田県(秋田大学拠点)リハビリテーション科専門研修プログラムの目的と使命は以下の4点にまとめられます。
- ①専攻医が医師として必要な基本的診療能力(コアコンピテンシー)を習得すること
 - ②専攻医がリハビリテーション科領域の専門的診療能力を習得すること
 - ③上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備えることにより、患者に信頼され、標準的な医療を提供でき、プロフェッショナルとしての誇りを持ち、患者への責任を果たせるリハビリテーション科専門医となること
 - ④リハビリテーション科専門医の育成を通して国民の健康・福祉に貢献すること
- 研修後に専攻医試験を受験いただき合格すればリハビリテーション科専攻医となります。

プログラムの説明

リハビリテーション科専門研修プログラムは、新専門医制度のもとで、リハビリテーション科専門医になるために、編纂された研修プログラムです。日本専門医機構の指導の下、日本リハビリテーション医学会が中心となり、リハビリテーション科専門研修カリキュラムが策定され、秋田県(秋田大学拠点)リハビリテーション科専門研修プログラムは、地方の立地を生かし、多くの症例の経験ができ、専攻医の皆さんの多様な希望にこたえられるプログラムを提供します。秋田大学医学部附属病院リハビリテーション科が連携施設と密に連絡を取りあい、研修医の希望を取り入れながら研修を進めています。また、最先端のリハビリテーションロボット、機能的電気刺激・磁気刺激など医用工学を取り入れたリハビリテーション医療を学ぶことも可能です。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 各種学会認定専門医数(秋田大学医学部附属病院リハビリテーション科)
日本リハビリテーション医学会専門医:2名
日本整形外科学会専門医:3名
日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医:2名
- 指導医
日本リハビリテーション医学会指導医:2名
- 各種学会施設認定
日本リハビリテーション医学会認定研修施設
- 主な連携病院
秋田赤十字病院、中通リハビリテーション病院、大湯リハビリ温泉病院、秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、市立横手病院、秋田県立医療療養センター



新型表面電極機能的電気刺激装置

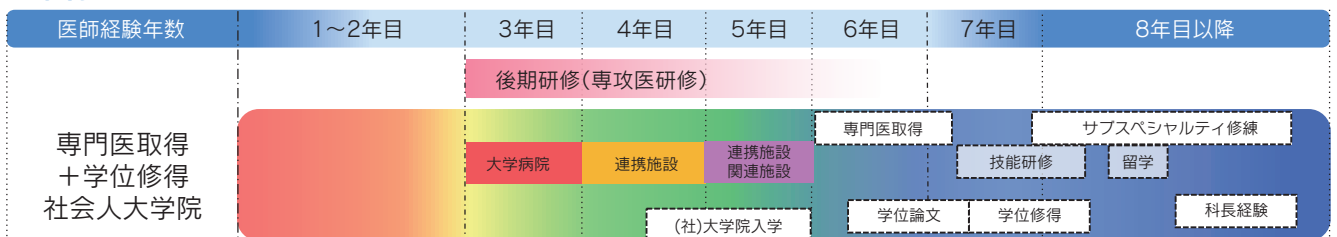


反復性経頭蓋磁気刺激装置



開発中のリハビリテーションロボット AkitaTrainer

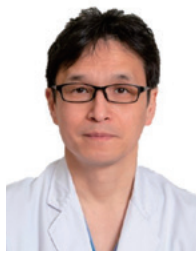
取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:小児神経専門医、感染症専門医

麻酔科専門医プログラム

定員
8名



プログラム責任者

麻酔・蘇生・疼痛管理学講座
新山 幸俊 教授

**専門研修
担当者
連絡先**
新山 幸俊 教授
TEL.018-884-6175 FAX.018-884-6448
E-mail niishima@med.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~masui/index.html>



プログラムの特徴

麻酔科学とは、手術という大きな侵襲から生体を守り、呼吸、循環、神経、体温など全身の機能を維持する生体管理医学です。麻酔科医は全身管理のスペシャリストであり、「患者さんの安全を保つ最後の砦」とも言えます。患者さんが安心して手術を受けられるよう手術中の麻酔管理だけでなく、術前や術後にも細心の注意を払っています。また、麻酔科医は、その全身管理の知識と技術を生かすことで、集中治療、ペインクリニック、緩和医療、救急医療、産科麻酔などの分野でも患者さんのニーズに応じた高度な医療を提供する役割を担っています。

本プログラムは、専門研修基幹施設である秋田大学医学部附属病院と、連携施設である秋田県内の主要病院をバランスよくローテーションすることで、十分な知識、技術、態度を備えた麻酔科専門医を育成することができます。秋田県は麻酔科専門医が不足している地域です。しかし、この数年、少しずつですが、麻酔科医は着実に増え続けています。われわれは今後、多くの優秀な麻酔科医を育成し、秋田県、さらには日本の医療に貢献することを目指しています。



プログラムの説明

麻酔科専門医を取得する際に必要な特殊麻酔の経験目標は小児(6歳未満)手術25例、帝王切開術10例、心臓血管外科手術25例、胸部外科手術25例、脳神経外科手術25例です。

本プログラムでは、研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間の

うち1年間は、専門研修基幹施設である秋田大学医学部附属病院で研修を行います。それ以外の期間は、プログラムに所属するすべての専攻医が経験目標を達成できるよう研修内容や進行状況などを十分に加味したうえで大学以外の複数の連携施設にて、それぞれ6か月～1年の研修を行います。本プログラムでは研修の早い段階で経験目標に到達することが可能です。4年間の研修終了後には麻酔科専門医試験の受験資格を満たすため、最短で大学卒業後7年目で専門医を取得することができます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

日本麻酔科学会:指導医 7名、専門医 18名、認定医 23名

日本ペインクリニック学会:専門医 2名

日本心臓血管麻酔学会:専門医 1名

日本神経麻酔集中治療学会:指導医 2名

日本区域麻酔学会:専門医 1名、認定医 1名

日本周術期経食道心エコー(JB-POT)認定医 7名

■指導担当医師の出身大学・高校

出身大学:札幌医科大学、秋田大学、筑波大学など

出身高校:札幌南、秋田、秋田南、横手、富岡、船橋、筑波大学附属駒場など

■各種学会施設認定

日本麻酔科学会、日本ペインクリニック学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本心臓血管麻酔学会

■主な連携病院

市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター、大曲厚生医療センター、雄勝中央病院、中通総合病院、本荘第一病院、由利組合総合病院、平鹿総合病院

取得までのキャリアパス

医師経験年数	1～2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
		後期研修(専攻医研修)					
Aコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学病院 / 一般病院)		大学病院 (基幹施設) 連携施設 (認定施設)			専門医取得	サブスペシャリティ研修 学位修得 科長経験
Bコース (専門医取得+学位修得) 社会人大学院	初期臨床研修 (大学病院 / 一般病院)		大学病院 (基幹施設) 連携施設 (認定施設)	学会発表、論文作成		専門医取得	学位取得 留学 科長経験

◆主要なサブスペシャリティ:ペインクリニック専門医、心臓血管麻酔専門医

救急科専門医プログラム

定員
5名



プログラム責任者
救急・集中治療医学講座
中永 士師明 教授

専門研修 担当者 奥山 学 准教授
連絡先 TEL.018-884-6185 FAX.018-884-6450
E-mail okuyamanabu@med.akita-u.ac.jp



プログラムの特徴

基幹施設の秋田大学医学部附属病院では主に重症患者の初期対応とICU管理を、その他の病院で1次から3次までの幅広い疾患を経験することで救急科専門医として必要な知識と技術を身につけます。救急科専門医プログラムは、①他科の研修も救急医のための研修としてしっかりしたものであれば研修期間として認められる(12か月以内)。②地域救急医療研修3か月間が必修。③専門医プログラムを休止して他の専門医プログラムへの移行が可能。他の専門医を取得後に救急専門医プログラムを再開できるという特徴があり、専門医プログラム取得後のサブスペシャリティを見据えた研修が可能です。

プログラムの説明

基幹施設である秋田大学医学部附属病院救急科での研修を1年—2年。地域救急医療研修を含め関連施設へ1年—2年。関連施設では救急科以外の研修が1年まで可能。このように秋田大学医学部附属病院と秋田県内の救急病院を組み合わせる研修を行います。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

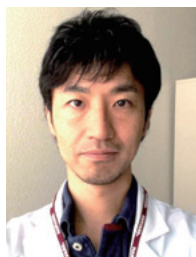
- 各種学会指導医数・認定医数・専門医数
救急科専門医:4名、救急医学会指導医:2名、集中治療専門医:3名、日本熱傷学会専門医:1名、日本整形外科学会専門医1名、日本東洋医学会指導医:1名、日本外科学会専門医1名
- 各種学会施設認定
救急科専門医指定施設、集中治療専門医施設、熱傷専門医認定研修施設
- 医局員紹介(出身大学・高校)
出身大学:奈良県立医科大学、秋田大学、関西医科大学
出身高校:奈良高校(奈良)、横手高校(秋田)、秋田高校(秋田)
- 主な連携病院
秋田県内すべての基幹型臨床研修指定病院:大館市立総合病院、能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、市立秋田総合病院、中通総合病院、秋田赤十字病院 由利組合総合病院、本荘第一病院、大曲厚生医療センター、市立角館総合病院、平鹿総合病院、市立横手病院、雄勝中央病院
地域の救急中核となる病院:かづの厚生病院、北秋田市民病院、秋田県立循環器・脳脊髄センター

取得までのキャリアパス

コースの特徴	救急科専門研修プログラム			学位・サブスペシャリティ研修			
	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
救急・集中治療 市中病院でも救急科所属	秋田大学救急科 救急科専門研修プログラム	秋田大学救急科 熱傷学会入会 救急・集中治療	市中病院(救急科) 救急	秋田大学救急科 救急・集中治療	秋田大学救急科 集中治療 研修	秋田大学救急科	熱傷専門医試験
他科ローテーション 市中病院中心	市中病院(他科) 研修科は自由選択	市中病院(救急科) 救急	秋田大学救急科 救急・集中治療	秋田大学救急科 救急・集中治療	市中病院 他科研修	学位 ・海外留学 ・国内留学 ・サブスペシャリティ研修 外傷、熱傷、感染症、中毒 災害医療など	
大学院入学	市中病院(他科) 研修科は自由選択	秋田大学救急科 大学院入学	秋田大学救急科 救急・集中治療	秋田大学救急科 救急・集中治療	秋田大学救急科		
外傷専門医	市中病院(他科) 外傷学会入会 外科・整形外科など	秋田大学救急科 救急	秋田大学救急科 救急・集中治療	市中病院 外科・整形外科研修	市中病院	外傷専門医試験	

あきた GP NET 専門研修プログラム

定員
5名



プログラム責任者

総合診療・検査診断学講座
植木 重治 教授

専門研修
担当者
連絡先
植木 重治 教授
TEL/FAX.018-884-6428
E-mail gpcenter@jim.u.akita-u.ac.jp
HP [https:// www.hos.akita-u.ac.jp/gpcenter/](https://www.hos.akita-u.ac.jp/gpcenter/)



プログラムの特徴

秋田県内に4つあった総合診療専門研修プログラムが2023年度に統合し、本プログラムが誕生しました。秋田大学医学部附属病院をハブとして、秋田県内をあまねく網羅した22か所の多様な医療機関(県外含め)と連携し、各医療機関の特徴を活かした研修の組み立てが可能です。

秋田県は高齢化率全国1位を独走し、「10年先の日本の姿」がここ秋田県にあると言っても過言ではありません。高齢者が抱える多疾患併存の問題や医療・介護・福祉の連携、ヘルスプロモーションなど、多くの学び・実践の場を提供するとともに、週1回のhalf day backを始めとした濃密な振り返りでその学びを今後活かす「省察的实践家」としての総合診療専門医を、指導医や仲間と共に目指します。

詳細は、<https://akitagnpnet.org>をご覧ください。

プログラムの説明

本プログラムの1年あたりの定員は5名です。病院・診療所などで幅広い診断能力を持つ総合診療専門を養成するにあたり、診療科にとらわれない診療を行う「総合診療専門研修Ⅰ/Ⅱ」、領域別研修の「内科/小児科/救急科研修」を秋田県内外の連携22施設でフレキシブルに行うことが可能です。

研修は「臨床現場での学習」・「診療現場を離れた学習」・「自己学習」の大きく3つに分けられ、基幹施設または連携施設の施設群で、それぞれの特徴を生かした症例や技能、診療に関わる情報などを幅広く専門的に学ぶことができます。

研修の一例として、1年目は基本的な医療知識・手技・技術・疾患マネジメントを身につけ、2年目は地域に密着した形での診療を通じて社

会・地域に根差した医療を提供し、総合診療医に求められる研修を行います。3年目には総合診療専門医として必要とされる能力の最終的な獲得を目指します。

本プログラムは専攻医からのフィードバックを重視し、研修の順序・期間等は個々の希望や状況を勘案しプログラム改善も行いながら、診療のみならず国内外の学会への参加・発表、英文での論文作成、研究なども推奨しています。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定・専門医

総合診療専門医・指導医、家庭医療専門医、プライマリ・ケア認定医・指導医、病院総合診療認定医・指導医、地域総合診療専門医・指導医、総合内科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医、日本消化器学会専門医、日本肝臓学会専門医、ほか多数の専門医を含む。

■各種学会施設認定

日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療後期研修プログラム認定施設、日本病院総合診療医学会 病院総合診療専門医後期研修プログラム認定施設

■主な出身大学

秋田大学、東北大学

■主な連携施設

秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、湖東厚生病院、男鹿みなと市民病院、市立大森病院、亀田ファミリークリニック館山(千葉県)、北秋田市民病院など(連携施設22施設)



取得までのキャリアパス

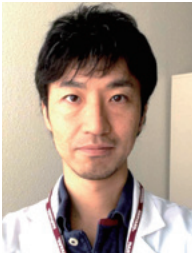
	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目～	
	総合診療専門研修			サブスペシャリティ専門研修*					
総合診療	大学病院をハブとして 県内外22施設での研修			総合診療専門医試験 ↓ 専門医取得	大学病院をハブとして 県内外22施設での研修			・大学病院や地域の市中 病院での総合診療の実践 ・卒前・卒後教育への参画 ・研究 ・国内外留学	
総合診療 + サブスペ	大学病院をハブとして 県内外22施設での研修				大学病院をハブとして 県内外22施設での研修				
上記 + 研究	大学病院をハブとして 県内外22施設での研修				大学病院をハブとして 県内外22施設での研修				
	随時 社会人大学院への入学 → 学位修得								

*選択するサブスペシャリティによって期間、研修施設が異なります

◆主要なサブスペシャリティ: 家庭医療, 病院総合診療, 地域総合診療

臨床検査専門医プログラム

定員
2名



プログラム責任者
総合診療・検査診断学講座
植木 重治 教授

専門研修
担当者
連絡先
植木 重治 教授
TEL.018-884-6209 FAX.018-884-6209
E-mail shigeh@hos.akita-u.ac.jp
HP <https://www.med.akita-u.ac.jp/~gimclm/>



プログラムの特徴

日本臨床検査医学会は基本領域学会の一つであり、県内で専門医コースを開設するのは当科のみです。基本的には大学病院の検査部を中心に研修しつつ、一般病院の検査部や内科外来、感染制御などのチーム医療の研修を並行して行います。また、臨床検査専門医の特性上、基本領域のダブルボードも可能であり、他科の専門医取得後にプログラムに入ることもできます。

プログラムの説明

臨床検査は、EBMIにおける客観的な指標として診療にかかせないものです。臨床検査専門医は、検査技師とともに検査の品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に従事する専門医です。検査医の存在は、教育病院や基幹病院の診療・教育・研究に重要であるとともに、診療報酬(検体検査管理加算料)の面から病院経営にも大きく貢献することができます。

医師として深い造詣を持つには、学問として医学をとらえる時期が必要であると考えます。その入り口として臨床検査医学は最適ではないでしょうか？ 博士課程への進歩も推奨していますが、これは病態を明らかにするとともに、その知見を検査や診断学に落とし込むこと、新しい治療に結びつけていくことを体験してもらうためです。この経験は医師人生にとって非常にエキサイティングなものとなるはずで

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

東北地区の認定研修施設は6施設のみで、秋田大学はそのひとつです。講座のスタッフは、日本臨床検査医学会専門医・管理医、日本プライマリ・ケア学会 認定医(指導医)、日本内科学会 総合内科専門医(認定医)、認定内科医(指導医)、日本アレルギー学会専門医(指導医)、日本肝臓学会専門医、日本感染症学会専門医など、各領域にまたがっており、研修を通じて診療科に関わらず横断的な、多様な視点が養われることを期待しています。関連施設は大曲厚生医療センターのみで、基本的に大学で研修を行います。関連施設を増やす予定ですので、個々の希望に応じてフレキシブルに対応します。



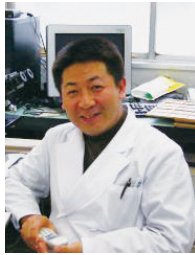
取得までのキャリアパス

医師経験年数	1~2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目以降
Aコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	後期研修(専攻医研修)	大学病院/一般病院 大学病院:(基幹施設) 連携施設:(認定施設)	技能研修	論文	サブスペシャリティ(他の基本領域)修練	学位修得 卒前・卒後教育の提供
	Bコース (専門医取得+学位修得) 社会人大学院	初期臨床研修 (大学病院/一般病院)	大学病院/大学院 大学病院:(基幹施設) 連携施設:(認定施設)	(社)大学院入学	技能研修	学位論文	サブスペシャリティ(他の基本領域)修練

◆主要なサブスペシャリティ(予定):感染症専門医、その他の基本領域とのダブルボード

病理専門医プログラム

定員
3名



プログラム責任者
分子病態学・腫瘍病態学講座
大森 泰文 教授

専門研修 南條 博 病院教授
担当者 TEL.018-884-6182 FAX.018-884-6200
連絡先 E-mail hnanjo@med.akita-u.ac.jp



プログラムの特徴

1. 病理専門医と細胞診専門医を取得できる。
2. ワークライフバランスに沿ったコース選択が可能である。
3. 特定臓器に片寄らない豊富な症例を経験できる。
4. 臨床各科とのカンファランスが充実している。
5. 研修認定施設を含む関連病院を有している。
6. テレパソロジーを含めた関連病院の診断支援を行っている。
7. 臨床病理学的研究を行える環境が整い、基礎病理学教室と密接に関連しているので学位取得が可能である。

プログラムの説明

概要 各科から提出される生検組織、手術材料の切り出し・診断をバランスよく行うことで全身の病理組織の基礎知識を習得する。

魅力 病理部で行う診断業務は、一見臨床から離れた地味なイメージがありますが、実は患者さんの治療方針や予後に直接的に関わる臨床的な仕事です。日々のカンファランスや、教科書での勉強が診断能力の向上につながり、自分の成長が実感できます。また、自分の時間を持つので一つの疾患をじっくり勉強したい人には最適です。指導医が顕微鏡をみながらマンツーマンで教えてくれます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■各種学会認定専門医数

病理専門医:8名(うち指導医5名)、細胞診専門医:4名、分子病理専門医3名

■各種学会施設認定

日本病理学会認定施設、日本臨床細胞学会認定施設

■医局員の出身大学・出身高校

○医局員の出身大学医学部…秋田大学、東北大学、東京大学、宮崎大学、日本医科大学

○出身高校…秋田高校、仙台第二高校、私立武蔵高校、土浦第一高校、錦城高校、江戸川学園取手高校、大館鳳鳴高校、秋田南高校、姫路西高校、県立船橋高校、湯沢高校

■主な連携病院

秋田厚生医療センター、秋田赤十字病院、由利組合総合病院、平鹿総合病院、中通総合病院、雄勝中央病院、能代厚生医療センター、市立秋田総合病院、大館市立総合病院、秋田県立循環器・脳脊髄センター、大曲厚生医療センター、市立横手病院、本荘第一病院、市立角館総合病院、秋田労災病院、能代山本医師会病院、北秋田市民病院、湖東厚生病院、がん研有明病院、日本海総合病院

取得までのキャリアパス

医学部卒業後年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
Aコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学/連携病院)		主に大学病院/定期的に連携病院で研修 死体解剖医国家資格取得			病理専門医取得 細胞診専門医取得	
Bコース (専門医取得及び学位取得) 社会人大学院3年目入学	初期臨床研修 (大学/連携病院)		大学院(社会人大学院含む) 主に大学病院/定期的に連携病院で研修 死体解剖医国家資格取得				学位取得 病理専門医取得 細胞診専門医取得
Cコース (専門医取得)	初期臨床研修 (大学/連携病院)		主に連携病院/定期的に大学病院で研修 死体解剖医国家資格取得			病理専門医取得 細胞診専門医取得	
Dコース (専門医取得及び学位取得) 社会人大学院3年目入学	初期臨床研修 (大学/連携病院)		大学院(社会人大学院含む) 主に連携病院/定期的に大学病院で研修 死体解剖医国家資格取得				学位取得 病理専門医取得 細胞診専門医取得

※大学に在籍中は、医員として勤務する。 ※連携病院に在籍の場合は、その病院の規定に従い勤務する。

内科専門医プログラム

定員
3名



プログラム責任者
辻 剛俊 内科診療部長

専門研修
担当者
連絡先
島山 朋子 主査
TEL.018-823-4171 FAX.018-866-7026
E-mail ro-homn@akita-city-hospital.jp
HP http://www.akita-city-hospital.jp/



プログラムの特徴

循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、血液・腎臓内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科の6科からなる市立秋田総合病院を基幹病院とし、高度で専門性の高い研修が可能な秋田大学医学部附属病院、地域に密着した医療を研修できる市立横手病院、市立大森病院と連携しております。専攻医の様々な希望や将来像を尊重し、柔軟にプログラムを作成します。初期臨床研修病院として県内トップクラスの実績を持つ「研修病院力」が、内科専攻医にとっても力強い味方になってくれるはずです。

プログラムの説明

内科標準タイプ、サブスペシャリティ重点研修タイプ、内科サブスペシャリティ混合タイプから選択できます。原則として1年間は連携施設での研修となります。連携施設は専攻医の希望や県内の状況に応じて適宜追加されており、能代厚生医療センター、由利組合総合病院、国立病院機構あきた病院にも加わっていただいております。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

当院の内科は6科に分かれ、それぞれに総合診療内科専門医が1名以上在籍し、一般診療から専門性の高い診療の指導を行っております。

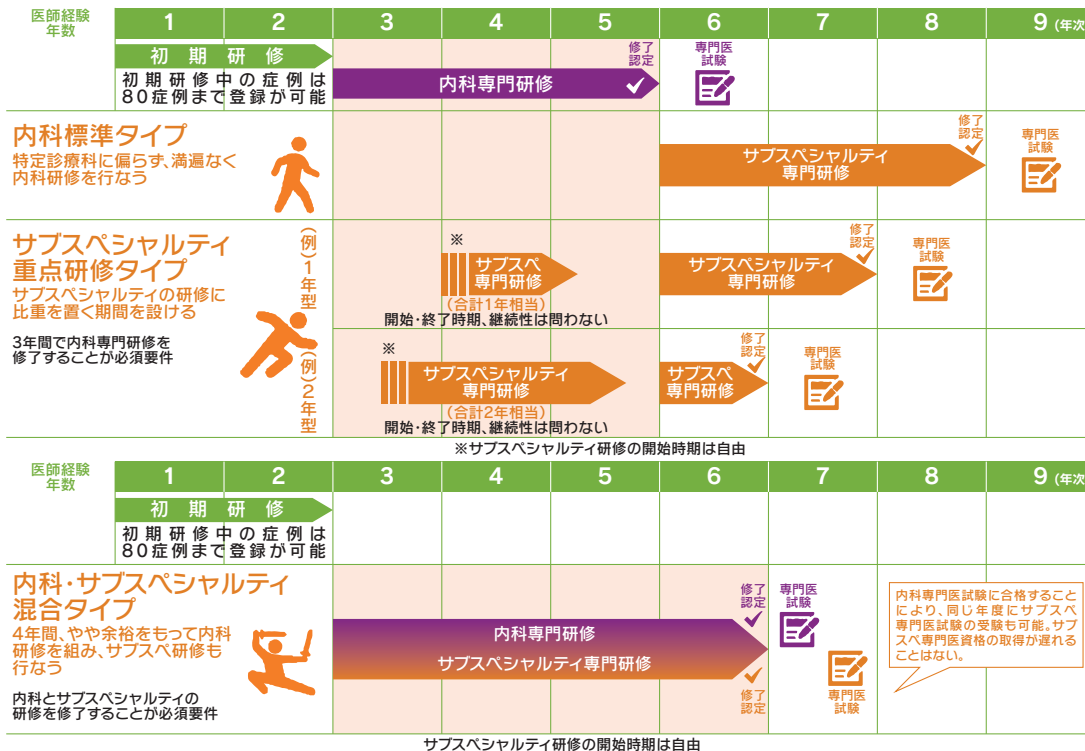
■施設認定

日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会専門医認定医制度研修関連施設、本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本肝臓学会専門医制度関連施設、日本超音波医学会専門医制度研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本輸血・細胞治療学会I&A認証施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会専門医研修施設

■関連施設

秋田県立循環器・脳脊髄センター、市立角館総合病院、市立大森病院、男鹿みなと市民病院

取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:
循環器、消化器、呼吸器、血液、腎臓、神経、糖尿病



プログラム責任者

秋田赤十字病院
村田 雅彦
健診部長

専門研修
担当者
連絡先

総務課 西谷 悠佑
TEL.018-829-5000 FAX.018-829-5255
E-mail kensyu@akita-med.jrc.or.jp
HP <http://www.akita-med.jrc.or.jp/pages/d-kensyuu-k>



プログラムの特徴

内科専門医受験に必要な内科各分野160症例を、各科・連携施設との連携により経験します。症例の経験については、各科担当指導医が個別にコーディネートし、専門医になるために必要な症例を効率的に経験することができます。

- また、研修コースは大きく以下の2つのタイプを用意しております。
- 1:内科標準タイプ(時間をかけて内科を全般的に)
 - 2:サブスペシャリティ重点研修タイプ(サブスペも同時進行で)

さらに当院は救命救急センターとして各分野横断的な診療機会が多い一方で、下記のとおり内科系診療科・部門が充実しており、サブスペの経験値を十分に深められるチャンスにも恵まれています。

消化器内科(肝胆膵)、消化器内科(消化管)、代謝内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、血液内科、内科(総合診療)、救急科、緩和ケア内科、健診部、検査部

なお、サブスペシャリティ研修については、特に秋田大学との連携で専門性を高めます。

また、毎週定期的に内科系診療科の輪番で検討会も開催しており、幅広く勉強できる環境が整っています。

内科専門医を目指す皆さんへ

当院は内科各分野に限らず、ほぼ全科が揃っている三次救急指定病院のため超急性期医療から慢性期医療、Common diseaseから報告に値するrareな症例まで幅広く経験することが可能です。外科、他職種とのカンファランスや内科症例検討会も充実しており、診療科を超えたチーム医療が行われております。また、職員旅行や部活動など他科医師やコメディカルスタッフとの交流の場も豊富です。「日々の研修が楽しい」「質問しやすい」と思える職場でみなさんをお待ちしております。

施設認定・連携施設

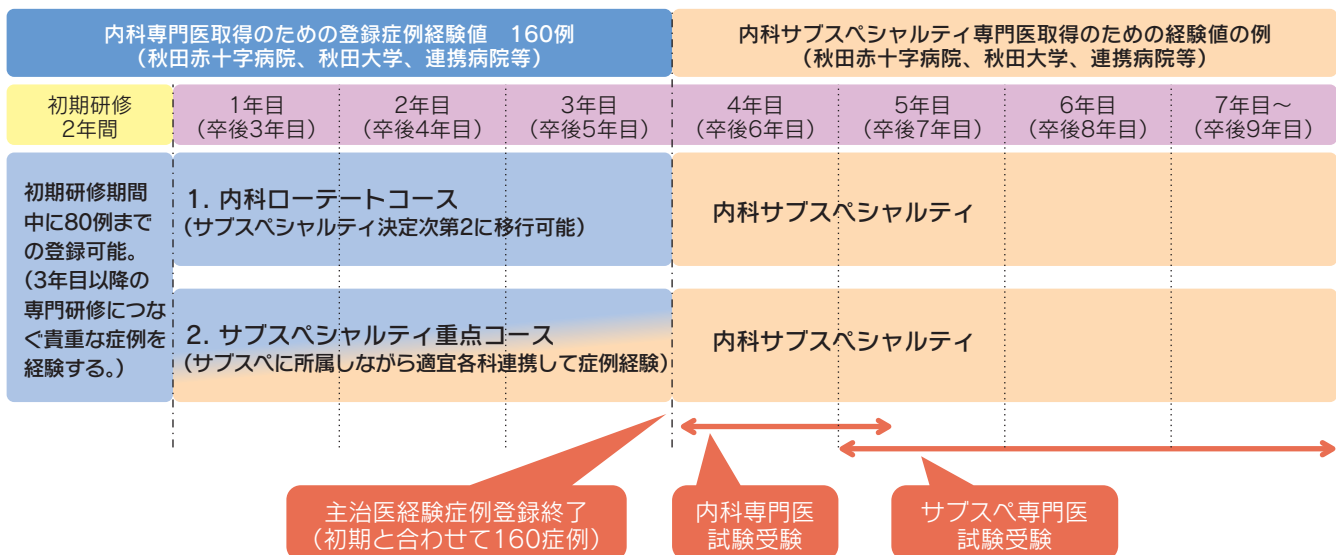
■内科系の主な施設認定

日本内科学会認定医制度教育施設、日本透析医学会認定医制度教育関連施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本血液学会専門医制度血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修指定施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

■連携施設

秋田大学医学部附属病院、中通総合病院、市立横手病院、能代厚生医療センター、由利組合総合病院

取得までのキャリアパス



救急科専門医 秋田赤十字病院 救急科専門医研修プログラム

定員
2名



プログラム責任者
救命救急センター
藤田 康雄
救命救急センター長

専門研修
担当者
連絡先

総務課 西谷 悠佑
TEL.018-829-5000 FAX.018-829-5255
E-mail kensyu@akita-med.jrc.or.jp
HP <http://www.akita-med.jrc.or.jp/pages/d-kensyuu-k>



プログラムの特徴

幅広く偏りのないプログラム

秋田赤十字病院救急科専門医研修プログラムは基幹施設と連携病院群が一体となって運営する救急科専門医研修プログラムです。救急に必要な幅広い知識と技術を習得することが本プログラムの第一の目的です。

大学の垣根を越えた専攻医応募

当院では出身大学を問わない自由な風土があります。

豊富な連携施設群

連携施設群は秋田県内の他、関東近郊の基幹病院まで幅広い病院と連携しております。

ダブルボード取得を支援

救急科専門医の取得はもちろんのこと、内科、麻酔科等の専門医の取得を支援します。秋田赤十字病院救急科専門医研修プログラム修了の後、ダブルボード取得のため内科、麻酔科等の研修を行うことを支援します。

救急科専門医を目指す皆さんへ

当院では1～3次(CPA含む)までの幅広い症例を経験出来ます。秋田県内の重症外傷症例を多く受け入れており、外傷治療を経験出来るほか、フライトドクタートレーニングも同時に行っています。

研修プログラムの施設群

秋田赤十字病院と連携施設(6施設)により専門研修施設群を構成しています。

本専門研修施設群では20名以上の専門研修指導医が専攻医を指導します。

■専門研修基幹施設

1. 秋田赤十字病院 救命救急センター

■連携施設

2. 東京医科歯科大学医学部附属病院
3. 東京女子医科大学東医療センター
4. 昭和大学病院
5. 横浜労災病院
6. 市立横手病院
7. 能代厚生医療センター

取得までのキャリアパス



内科専門医 内科専門研修プログラム

定員
3名



プログラム責任者
呼吸器内科
福井 伸 副院長

専門研修
担当者先
連絡先
福井 伸 副院長
TEL.018-880-3000 FAX.018-880-3040
E-mail akikumi@akikumihsp.com
HP http://www.akikumihsp.com



プログラムの特徴

内科専門医受験に必要な内科各分野160症例を当院で経験できます。そのうち、初期研修にて最大80例の各分野症例を経験できますので初期研修を有効に活用しましょう。各科担当指導医が個別に必要な症例をコーディネートします。

プログラムの説明

1. 内科標準ローテートコース

・サブスペシャリティが決まっていない医師向けに、希望に応じて内科各分野を数か月ずつローテートで修練するコースです。サブスペシャリティが決まった段階で、サブスペシャリティ重点コースに変更可能です。

2. サブスペシャリティ重点コース

・卒業3年目から内科系サブスペシャリティ専門科に所属して、内科専門医とサブスペシャリティ専門医取得を目指すプログラムです。各科と関連病院と連携して3年間で内科専門医に必要な症例を経験できます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■指導医

15名(血液内科3名、消化器内科3名、循環器内科3名、呼吸器内科3名、腎臓内科1名、糖尿病・代謝内科2名)

■施設認定

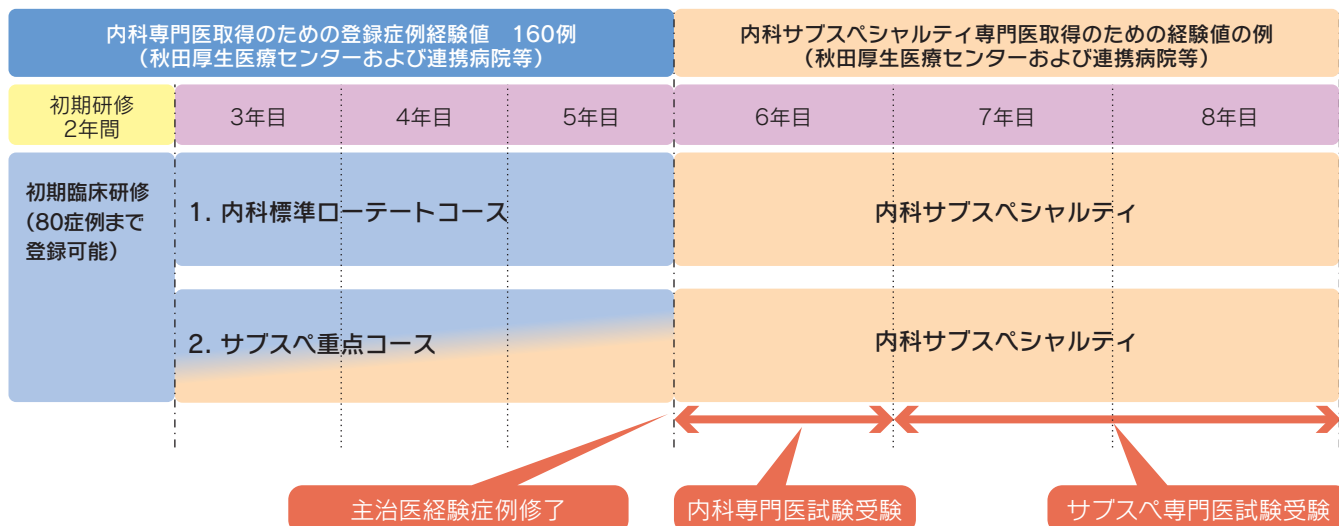
地域がん診療連携拠点病院、日本内科学会認定教育病院、日本血液学会認定血液研修施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本呼吸器学会関連施設、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本胆道学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設

■関連施設

秋田大学医学部附属病院、湖東厚生病院、藤原記念病院、北秋田市民病院、雄勝中央病院、能代厚生医療センター、由利組合総合病院、沖縄県立北部病院、沖縄県立北部病院(8施設)



取得までのキャリアパス



整形外科専門医 整形外科専門研修プログラム

定員
9名



プログラム責任者
整形外科
小林 孝 副院長

専門研修
担当者
連絡先
小林 孝 副院長
TEL.018-880-3000 FAX.018-880-3040
E-mail akikumi@akikumihsp.com
HP http://www.akikumihsp.com



プログラムの特徴

脊椎、人工関節、外傷手術が多く、学会発表や英語論文作成も積極的に行っています。

プログラムの説明

目標:地域医療に貢献できる幅広い知識と視野をもった整形外科医師
高齢化社会に即した医療を中心に研修を行い、他科と連携したチーム医療・地域医療、特に包括的な医療を担えるような整形外科医師を目指します。

3年9か月間で、脊椎6単位 上肢・手4単位 下肢4単位 外傷6単位 リウマチ4単位 スポーツ4単位 小児整形3単位 腫瘍5単位 リハビリ5単位 地域医療4単位 計45単位を取得します。

地域枠や県等の奨学生専攻医にも対応できる、専攻医の希望に応じて、取得単位を勘案しながらローテーションする機会を提供します。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

- 指導医
4名(整形外科専門医4名 うち脊椎脊髄病医認定医2名)
- 施設認定
地域がん診療連携拠点病院、日本整形外科学会研修施設、日本脊椎外科専門医基幹研修施設、日本脊椎脊髄病学会クリニカルフェロー研修施設、日本脊椎脊髄病学会アドバンスコース登録施設
- 関連施設
秋田大学医学部附属病院、雄勝中央病院、秋田県立医療療育センター、秋田赤十字病院、市立大森病院、北秋田市民病院、男鹿みなと市民病院、能代厚生医療センター、本荘第一病院、町立羽後病院、秋田労災病院、平鹿総合病院、市立秋田総合病院、由利組合総合病院、中通総合病院、市立角館総合病院、市立横手病院(17施設)



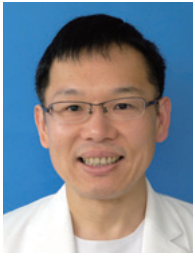
取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャリティ:脊椎外科専門医

内科専門医プログラム

定員
3名



プログラム責任者

中通総合病院
奥山 慎

腎臓・リウマチ科統括科長



**専門研修
担当者先
連絡** 我妻 崇思 臨床研修担当
TEL.018-833-1122 FAX.018-831-9418
E-mail meiwajin@meiwakai.or.jp
HP <http://www.meiwakai.or.jp/nakadori>

プログラムの特徴

本プログラム専門研修施設群での3年間(基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間)に、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を習得できます。基幹施設である中通総合病院での2年間で、70疾患群のうち、少なくとも45疾患群、120症例以上を経験できます。そして、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成します。また、専門研修施設群での1年間で、最終的に56疾患群、160症例以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。

なお、サブスペシャリティ決定次第、研修達成度も勘案しながらサブスペ連動研修も可能です。この場合の指導、評価はSubspecial指導医が行います。

当院で取得可能なSubspecialは消化器、循環器、呼吸器、神経、糖尿病、腎臓、内分泌代謝などがあります。

プログラムの説明

当院は秋田市の中心市街地にある急性期総合病院で年間約3,000台の救急車搬入があり多くの救急症例を経験できます。また多岐にわたる内科疾患例の方が入院しており、各分野の指導医のもとでリサーチマインドをもった内科医として総合的力量を獲得できます。また当プログラムを構成する連携施設・特別連携施設はそれぞれ特色があり、3年間の専門研修を通じて、医療圏・地域に必要とされる、そしてこれからの医療に求められる広い視野と深い洞察力を備えた内科専門医に育つ

ことは間違いありません。大きな飛躍に向かって是非、共に学び合ひましょう。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■学会認定施設(内科系)

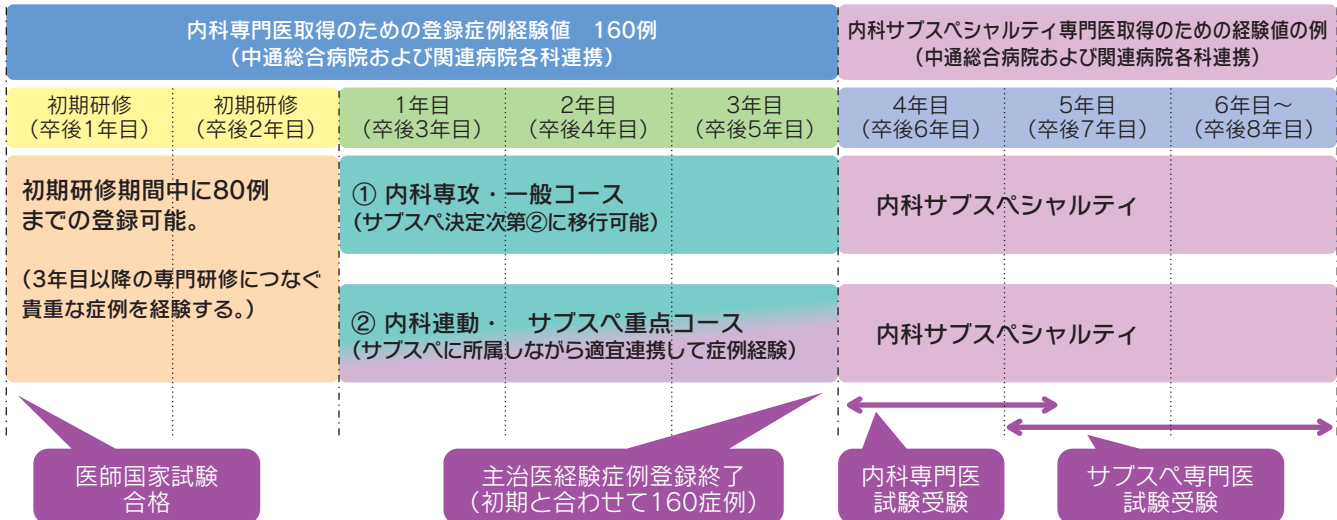
日本内科学会認定医制度教育病院、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設(関連施設)、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設(関連施設)、日本消化管学会専門医制度暫定処置による胃腸科指導施設、日本腎臓学会専門医制度研修施設、日本リウマチ学会専門医制度教育施設、日本がん治療認定医機構認定教育施設、日本ステントグラフト実施基準管理委員会ステントグラフト実施施設(胸部・腹部大動脈瘤)、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本甲状腺学会専門医制度認定専門医施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設

■関連施設

秋田大学医学部附属病院、秋田赤十字病院、青森・健生病院、大館市立扇田病院、大曲中通病院

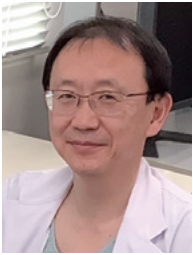


■取得までのキャリアパス



内科専門医プログラム

定員
5名



プログラム責任者
循環器内科
深堀 耕平 診療部長

専門研修
担当者
連絡先
臨床研修事務担当
TEL.0182-32-5121 FAX.0182-33-0635
E-mail hrkjmsom@air.ocn.ne.jp
HP <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>



プログラムの特徴

- 基本的にサブスペシャリティ研修です。特に消化器・循環器の症例が質・量とも極めて豊富で、手技も多数経験可能です。また、循環器・消化器以外のサブスペシャリティ志望者が他分野の症例を経験したい時にも最適です。
- 地域に密着した診療を行っています。主治医として患者の全ての問題の解決に関わりますので、医師としての責任感が養われます。

プログラムの説明

2つの大学病院（秋田大学医学部附属病院、東北大学病院）および2つの市立病院（横手病院、大森病院）を連携施設にしており、高度先進医療と地域医療いすれにも対応した研修が可能です。幅広く豊富な症例を経験することによって内科の基礎的な診療能力が身につきます。

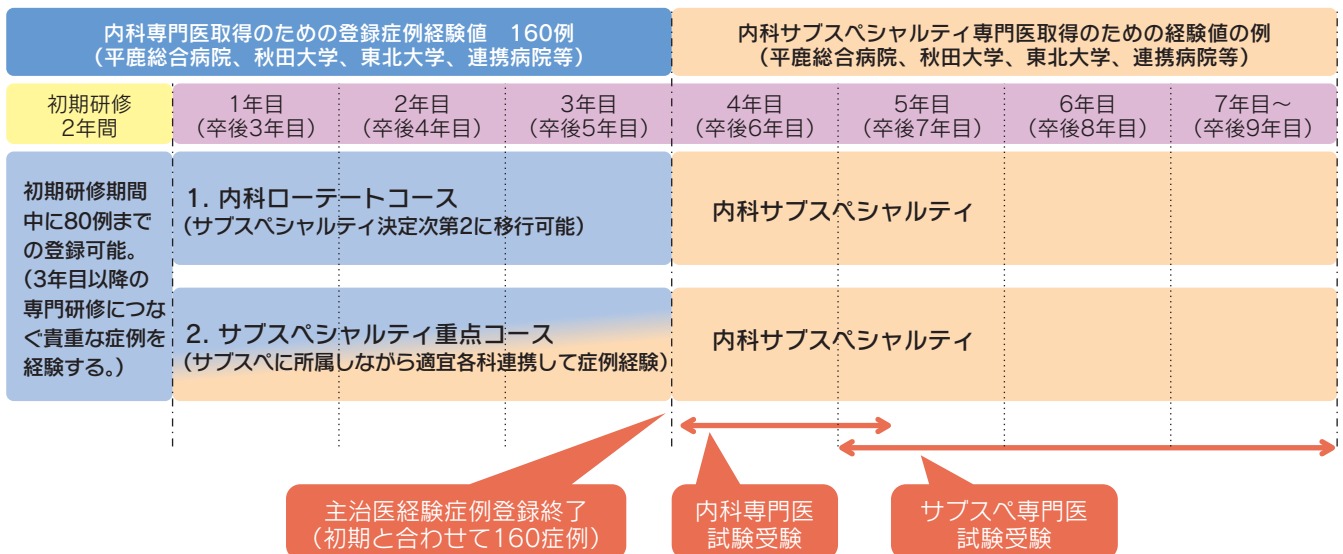
専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設など

■指導医

12名（循環器5名、消化器3名、血液3名、代謝内分泌1名）



取得までのキャリアパス



病理専門医プログラム

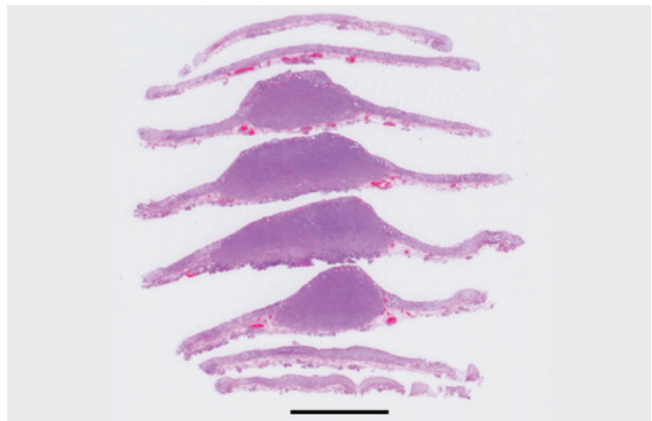
定員
1名

プログラム責任者

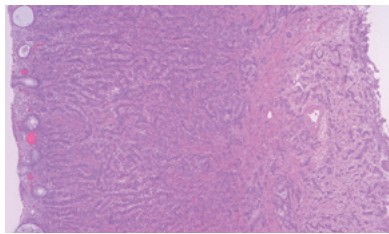
病理診断科

高橋 さつき 病理診断科部長

専門研修担当者連絡先
高橋 さつき 病理診断科部長
TEL.0182-32-5121(内)2200 FAX.0182-33-0950
E-mail sasa23sa5stsk5@gmail.com



プログラムの特徴・説明



病理診断は、組織や細胞などの実体に基づくもので、すべての疾患治療の根拠となるものです。この分野を構成する専門医として、実力を発揮しませんか。

基幹病院の平鹿総合病院では、日々の病理診断・術中迅速診断・細胞診・剖検症例に携わりつつ、経験を蓄積し、独り立ちした病理専門医を目指します。がん診療連携拠点病院であり、現在は乳腺科と血液内科の症例がとくに豊富です。日常の実践的な基礎としての症例に加え、希少症例もあり、多彩な症例により、学会発表や論文投稿などを行い、考察を深めます。細胞診は地域の検診も担っているため、基礎から実践に参加できます。

連携施設の大曲厚生医療センターでは、実地の病理診断の経験を拡張していきます。呼吸器外科や耳鼻科の症例が豊富で、細胞診も共に学習可能です。

連携施設かつ基幹病院の秋田大学医学部附属病院や弘前大学医学部附属病院では、希少症例あるいは高度な症例を、以前の蓄積症例を含めて、さらに拡張した学習を重ねます。大学院、研究施設もありますので、分子病理学の入門部分を実践、習得可能です。

施設認定、関連施設など

■主な連携施設

大曲厚生医療センター、秋田大学医学部附属病院、弘前大学医学部附属病院

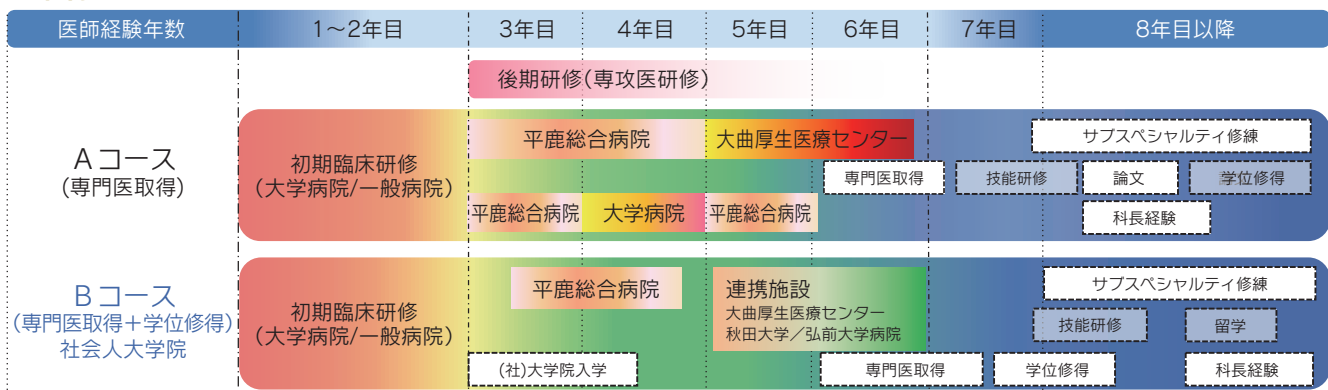
■資格、講習会、学会活動(参加と発表が推奨されている)

死体解剖資格(国家資格/必須) 2年間で20例の剖検経験で申請、取得
病理学会の定める、剖検講習会・細胞診講習会・分子病理講習会など発表
日本病理学会総会、日本病理学会東北支部学術集会、日本臨床細胞学会など

■福利厚生

後期研修医、卒後〇年目、として採用され給与がでます。

取得までのキャリアパス



◆必須資格:死体解剖資格

連携病院・関連病院一覧

基本領域	基幹施設名	定員	大館・鹿角				北秋田	能代・山本				秋田								
			秋田労災病院	大館市立総合病院	大館市立扇田病院	かづの厚生病院		大湯リハビリ温泉病院	能代厚生医療センター	能代山本医師会病院	森岳温泉病院	男鹿みなと市民病院	湖東厚生病院	杉山病院	藤原記念病院	秋田大学医学部附属病院	脳脊髄センター	秋田県立循環器・ 秋田県立循環器センター	秋田県立医療療育センター	市立秋田総合病院
内科	秋田大学医学部附属病院	30	△	○	○	△	○	○	△	△	○	○	○	◎	○			○	○	○
内科	市立秋田総合病院	3						○						○				◎		
内科	秋田厚生医療センター	3					○	○					○	○					◎	
内科	秋田赤十字病院	3						○						○						◎
内科	中通総合病院	3			△									○						○
内科	平鹿総合病院	5			△									○						
小児科	秋田大学医学部附属病院	8		○				○						◎		○	○	○	○	
皮膚科	秋田大学医学部附属病院	4						○						◎				○	○	
精神科	秋田大学医学部附属病院	8						○				○	◎				○	○	○	
外科	秋田大学医学部附属病院	15	○	○			○	○	○		○		○	◎			○	○	○	
整形外科	秋田大学医学部附属病院	8	○				○	○			○		◎			○	○	○	○	
整形外科	秋田厚生医療センター	9	○				○	○			○		◎			○	○	◎	○	
産婦人科	秋田大学医学部附属病院	7					○	○					◎				○	○	○	
眼科	秋田大学医学部附属病院	4								○	○		○	◎		○	○	○	○	
耳鼻咽喉科	秋田大学医学部附属病院	4						○					◎				○	○		
泌尿器科	秋田大学医学部附属病院	7		○				○					◎				○	○	○	
脳神経外科	秋田大学医学部附属病院	4		○				○					◎	○				○	○	
放射線科	秋田大学医学部附属病院	4						○					◎	○			○	○	○	
麻酔科	秋田大学医学部附属病院	8											◎	○			○	○		
病理	秋田大学医学部附属病院	3	○	○			○	○	○		○		◎	○			○	○	○	
病理	平鹿総合病院	1											○							
臨床検査	秋田大学医学部附属病院	2											◎							
救急科	秋田大学医学部附属病院	5		○	○		○	○					◎	○			○	○	○	
救急科	秋田赤十字病院	2						○												
リハビリテーション科	秋田大学医学部附属病院	2				○							◎		○				○	
総合診療科	秋田大学医学部附属病院	5		○	○		○	○		○	○		○	◎			○	○	○	

※内科専門研修プログラムにおいては、「連携施設」を「○」、「特別連携施設」を「△」で表記しています。

県内病院の専門研修プログラム

連携病院・関連病院一覧

周辺				由利本荘・にかほ						大仙・仙北						横手			湯沢・雄勝													
中通総合病院	中通リハビリテーション病院	秋田緑ヶ丘病院	秋田回生会病院	笠松病院	外旭川病院	今村病院	秋田東病院	清和病院	加藤病院	国立病院機構あきた病院	独立行政法人	由利組合総合病院	菅原病院	本荘第一病院	小出診療所	にかほ市国民健康保険	象潟病院	精神医療センター	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター	市立大曲病院	市立角館総合病院	市立田沢湖病院	大曲厚生医療センター	大曲中通病院	協和病院	市立横手病院	市立大森病院	平鹿総合病院	横手興生病院	町立羽後病院	雄勝中央病院	
○					△	△				○	○		○								△	△	○	△	○	○	○			△	△	
										○	○														○	○						
											○															○					△	
○											○														○							
◎																							△									
																									○	○	◎			△		
○											○												○									○
																							○									
		○	○	○		○	○	○	○			○				○	○	○	○	○					○							
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○												○	○												○		○	○				○
○	○																								○		○	○				○
○												○													○	○	○					○

■ 専門研修プログラム一覧

秋田大学医学部附属病院

内科専門医プログラム

消化器病専門医プログラム
脳神経内科専門医プログラム
循環器専門医プログラム
呼吸器専門医プログラム
血液内科専門医プログラム
腎臓内科専門医、リウマチ専門医プログラム
糖尿病専門医、内分泌・代謝科専門医、老年科専門医プログラム
腫瘍内科専門医プログラム
感染症専門医プログラム

あきた外科専門研修プログラム

消化器外科専門医プログラム
呼吸器外科専門医、食道外科専門医、乳腺専門医プログラム
心臓血管外科専門医プログラム
小児外科専門医プログラム

脳神経外科専門医プログラム

小児科専門医プログラム

産婦人科専門医プログラム

精神科専門医プログラム

整形外科専門医プログラム

皮膚科専門医プログラム

泌尿器科専門医プログラム

眼科専門医プログラム

耳鼻咽喉科専門医プログラム

放射線科専門医プログラム

リハビリテーション科専門研修プログラム

麻酔科専門医プログラム

救急科専門医プログラム

あきた GP NET 専門研修プログラム

臨床検査専門医プログラム

病理専門医プログラム

市立秋田総合病院

内科専門医プログラム

秋田赤十字病院

内科専門医プログラム

救急科専門医プログラム

秋田厚生医療センター

内科専門医プログラム

整形外科専門医プログラム

中通総合病院

内科専門医プログラム

平鹿総合病院

内科専門医プログラム

病理専門医プログラム

■ 基幹施設連絡先一覧

秋田大学医学部附属病院

所在地…〒010-8543 秋田市広面字蓮沼44-2
連絡先…卒後臨床研修担当 TEL.018-884-6233
E-mail kenshuu@hos.akita-u.ac.jp

市立秋田総合病院

所在地…〒010-0933 秋田市川元松丘町4-30
連絡先…市立秋田総合病院事務局 TEL.018-823-4171
E-mail ro-homn@akita-city-hospital.jp

秋田赤十字病院

所在地…〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢222-1
連絡先…総務課 TEL.018-829-5000
E-mail kensyu@akita-med.jrc.or.jp

秋田厚生医療センター

所在地…〒011-0948 秋田市飯島西袋一丁目1-1
連絡先…総務管理課 TEL.018-880-3000
E-mail akikumi@akikumihsp.com

中通総合病院

所在地…〒010-8577 秋田市南通みその町3-15
連絡先…臨床研修担当 TEL.018-833-1122
E-mail meiwajin@meiwakai.or.jp

平鹿総合病院

所在地…〒013-8610 横手市前郷字八ツ口3-1
連絡先…総務管理課 TEL.0182-32-5121
E-mail hrkjmsom@air.ocn.ne.jp

あきた医師総合支援センター

秋田市広面字蓮沼44番2
(秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター1階)
E-mail.info@akitamd-support.com
TEL.018-884-6430 FAX.018-884-6457

セミナー情報や開催報告、先輩医師のキャリア紹介、説明会参加の様子など、当センターの活動内容や各種最新情報をホームページ、SNSでご紹介しています。



<https://akitamd-support.com>

Facebook あきた医師 Twitter @akitamdsupport